

第3章 札幌市の文化財

1. 文化財の把握の方針

(1) 対象・把握の考え方について

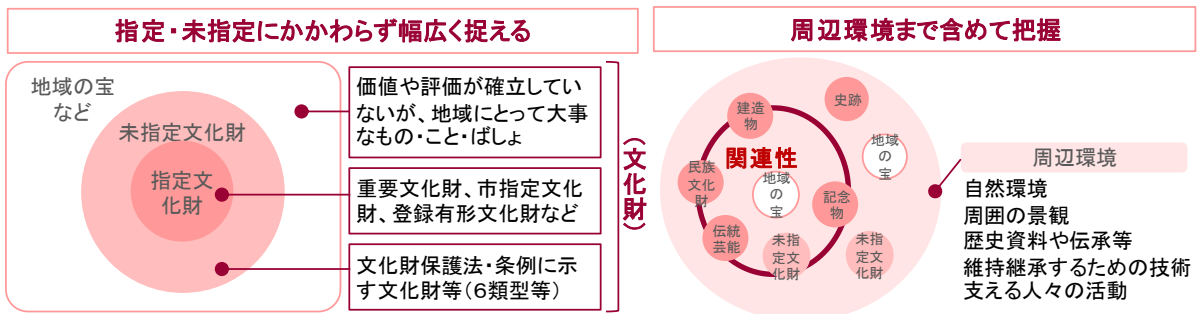
- 札幌市には文化財として指定・登録等がなされているもの以外にも貴重な文化財が多く存在しています。
- それらが年月の経過とともに失われていっているにもかかわらず、その多くを把握できていない状況にあります。
- これらについて都市を特徴づける貴重な財産として位置づけ、有効に活用しながら良好な状態で後世に継承していく必要があります。
- 一方で、国が示す「歴史文化基本構想」においては、地域の文化財の特性に応じて、既往の類型に捉われず、文化財を多角的な視点から見直すことや、有形・無形、指定・未指定にかかわらず、総合的に把握することが必要とされています。
- また、歴史文化基本構想にある「歴史文化」とは、文化財とそれに関わる様々な要素とが一体となったものを指しており、文化財をその周辺環境も含めて総合的に保存活用することとされています。
- 以上より、本構想における文化財の対象と把握の考え方を以下に整理します。

◆対象

- 札幌市に存在する文化財を、指定・未指定にかかわらず、地域にとって大事なもの・失いたくないものなどを含めて（※具体的な要件について要検討）幅広く捉え、また、本構想においては、『文化財』を、指定・登録等の有無や文化財保護法の類型にとらわれない、地域にとって大事なものなども含めた広義のものとして使用します。

◆把握の考え方

- 200万都市である札幌市には、多くの文化財が存在するため、地域にとって大事なもの・失いたくないものを幅広く把握していくと同時に、札幌市らしさ・地域らしさを特に物語るものについては、積極的に把握に努めることとします。
- 文化財把握の際には周辺環境「自然環境」「周囲の景観」「歴史資料や伝承等」「維持継承するための技術」「文化財を支えている人々の活動」も含めて把握します。



※1 6 類型：有形/無形/民俗/記念物/（文化的景観）/（伝統的建造物群）
 等：埋蔵文化財/（文化財の保存技術）
 （ ）は、札幌市において現時点で該当なし

(2) 文化財の分類方法等

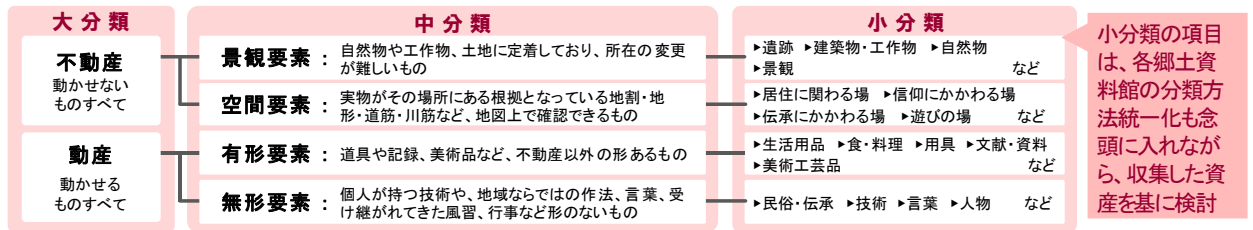
- ・幅広く「文化財」を捉えるため、これまでの6類型等も参考にしながら、総合的に把握整理できる新たな分類項目を設定します。
- ・リストの整理にあたっては、将来的なオープンデータ化、デジタルアーカイブ化等を考慮します。
- ・データ利活用のしやすさや札幌の歴史や文化などの地域特性を考慮した項目を設定します。

<参考：6類型等による文化財分類>

大分類:

有形文化財 / 無形文化財 / 民俗文化財 / 記念物 / 文化的景観 /
伝統的建造物群 / 埋蔵文化財 / 文化財の保存技術 /

<新たな文化財分類のイメージ>



将来的なオープンデータ化、データベース化を見据え、位置情報や調査報告書・台帳等とのつなかりを明記

所有者や管理者・支える人をセットで登録

ID	名称	ふりがな	札幌の歴史文化資産の分類			員数	時代	年代	西暦	重要文化財	有形文化財	登録	年月日	指定登録	都道府県	所在地	保管施設名称	所有者名	管理団体	緯度	経度	キーワード	関連資料	出典	各分野固有の項目
			大分類	中分類	小分類																				
001	豊平館	ほうへいかん	不動産	景観要素	建築物・工作物	1	明治	明治13	1880	○			1964.5.26	北海道	……	-	札幌市	……	……	……	……	……	……	……	……
002	開拓使文書	かいたくしふんしよ	動産	有形要素	文献・資料	7832	明治	-	-	○			2014.8.21	北海道	……	札幌市公文書館	北海道	……	……	……	……	……	……	……	……

本業務において、データ利活用のしやすさや札幌の地域特性を考慮し設ける項目

リスト項目の参考

- ・国指定文化財等データベース
- ・国立公文書館デジタルアーカイブ
- ・東京国立博物館研究情報アーカイブ
- ・札幌市 等

キーワード

豊平川、雪、メモ、アイヌ文化、札幌軟石、屯田兵、開拓使、農学校、お雇い外国人、試験牧場、定山溪鉄道、路面電車、オリンピック、地下街、食、産業、商業、農業、市街地、学校 等

各分野固有の項目

- ◆建築物・工作物: 構造、形式、沿革 等
- ◆美術品 : 作者、寸法・重量、品質・形状 等
- ◆民俗文化財 : 保護団体名 等
- ◆記念物/◆景観: 面積 等

2. 調査の概要

(1) これまでの文化財調査

(文化財調査)

	書籍名	著者・編者	発行年	備考
1	市内文化財基本調査書	教育委員会社会教育課	1970年(S45)	全分類網羅 548 件の名称リスト
2	市内文化財基本調査 工作物資料	教育委員会社会教育課	1970年(S45)	工作物
3	札幌市文化財基礎調査 郷土史跡	教育委員会社会教育課	1970年(S45)	郷土資料
4	札幌市文化財基礎調査 工作物資料			碑
5	工作物(文化財基本調査)	札幌市教育委員会	1972年(S47)	工作物調査カード(石像など)
6	工作物(文化財基本調査)	札幌市教育委員会	1972年(S47)	工作物調査カード(石像など)
8	文化財調査報告	札幌市	1984年(S59)	要望を受け調査した記録など市外資料もあり
9	文化財調査報告 2	札幌市	1984年(S59)	要望を受け調査した記録など市外資料もあり
10	文化財ノート 1	札幌市	1989年(H1)	
13	歴史的建造物基礎調査綴り	札幌市	1996年(H8)	
7	郷土資料館収蔵品一覧	札幌市	2000年(H12)	
12	登録文化財候補建造物基礎調査報告書	札幌市	2003年(H15)	
14	近代和風建築総合調査(リスト)		2006年(H18)	調査は H16-18
11	歴史的石造等建造物所在一覧(調査報告)	札幌市	2007年(H19)	
15	埋蔵文化財調査報告書一式			
16	歴史的資産活用推進事業に係る調査(H27年度)	札幌市	2016年(H28) 3月	建造物、調査手法等
17	歴史的資産活用推進事業に係る調査(H28年度)	札幌市	2017年(H29) 3月	建造物現地調査等
18	歴史的資産活用推進事業に係る調査(H29年度)	札幌市	2018年(H30) 3月	建造物・土木構造物現地調査等
19	札幌市歴史的資産調査リスト	札幌市	2018年(H30) 3月	新札幌市史等 文献調査

(参考文献・報告書等)

20	建造物緊急保存調査報告書	北海道教育庁指導部社会教育課	1972年(S47) 3月	
21	大正、昭和初期(1912~1945)の建築現存リスト—全国編・第一次 1974年	日本建築学会歴史・意匠委員会	1974年(S49)	
22	北海道の建築 1863—1974[年表]	日本建築学会北海道支部	1975年(S50) 9月	
23	新版 日本近代建築総覧 各地に遺る明治大正昭和の建物	日本建築学会	1983年(S58) 1月	
24	北海道の近世社寺建築 近世社寺建築緊急調査報告書	北海道教育委員会	1989年(H1) 3月	
25	北海道の近代化遺産 近代化遺産総合調査報告書	北海道教育委員会	1995年(H7) 3月	
26	札幌市の歴史的建物 歴史的建物の実態調査(1996年) および 1982年、1991年、1996年の 3時点の経年的追跡調査から	札幌市歴史的建物実態調査団	1997年(H9) 3月	
27	北海道の近代和風建築	北海道教育委員会	2007年(H19)	

	近代和風建築総合調査報告書		3月	
28	近代建築ガイドブック[北海道・東北編]	越野武+坂田泉	1985年(S60) 1月	
29	総覧 日本の建築 1 [北海道・東北]	日本建築学会	1986年(S61) 10月	
30	北の建物散歩	越野武+北大建築史研究室	1993年(H5) 9月	
31	札幌の建築探訪	北海道近代建築研究会	1998年(H10) 10月	
32	さっぽろ再生建物案内(第2版)	札幌建築鑑賞会	2003年(H15) 4月	
33	さっぽろ・ふるさと文化百選(パンフ)	札幌市市民局市民文化課	1988年(S63) 選定	
34	中央区歴史の散歩道(冊子)	札幌市中央区市民部総務課	1999年(H11)	
35	北区歴史と文化の八十八選(ガイドマップ)	札幌市北区市民部市民課	1990年(H2) 選定	
36	東区まち知るべ(冊子:第5刷)	札幌市東区市民部総務企画課	2009年(H21) (事業:1994年(H6)~)	
37	白石歴しるべ(HP)	札幌市白石区市民部地域振興課	1993年(H5) 設置	
38	あつべつ見聞録(冊子:第3版)	札幌市厚別区市民部総務広報課	1997年(H9) (事業:1990年(H2)~)	
39	とよひらふるさと再発見(HP)	札幌市豊平区市民部地域振興課	1992年(H4) 選定	
40	新札幌市史(第1巻 通史1)	札幌市 札幌市教育委員会	1989年(H1)	
41	新札幌市史(第2巻 通史1)	札幌市 札幌市教育委員会	1991年(H3)	
42	新札幌市史(第3巻 通史3)	札幌市 札幌市教育委員会	1994年(H6)	
43	新札幌市史(第4巻 通史4)	札幌市 札幌市教育委員会	1997年(H9)	
44	新札幌市史(第5巻 通史5上)	札幌市 札幌市教育委員会	2002年(H14)	
45	新札幌市史(第5巻 通史5下)	札幌市 札幌市教育委員会	2005年(H17)	
46	新札幌市史(第6巻 史料編1)	札幌市 札幌市教育委員会	1987年(S62)	
47	新札幌市史(第7巻 史料編2)	札幌市 札幌市教育委員会	1986年(S61)	
48	新札幌市史(第8巻II 年表・索引)	札幌市 札幌市教育委員会	2008年(H20)	
49	さっぽろ文庫別冊 札幌歴史写真集<明治編>	札幌市 札幌市教育委員会	1975年(S57)	
50	さっぽろ文庫別冊 札幌歴史写真集<昭和編>	札幌市 札幌市教育委員会	1979年(S59)	
51	さっぽろ文庫別冊 札幌歴史地図<明治編>	札幌市 札幌市教育委員会	1978年(S53)	
52	さっぽろ文庫別冊 札幌歴史地図<大正編>	札幌市 札幌市教育委員会	1980年(S55)	
53	さっぽろ文庫別冊 札幌歴史地図<昭和編>	札幌市 札幌市教育委員会	1981年(S56)	
54	さっぽろ文庫別冊 札幌生活文化史<明治編>	札幌市 札幌市教育委員会	1985年(S60)	
55	さっぽろ文庫別冊 札幌生活文化史<大正・昭和・戦前編>	札幌市 札幌市教育委員会	1986年(S61)	
56	さっぽろ文庫別冊 札幌生活文化史<戦後編>	札幌市 札幌市教育委員会	1987年(S62)	
57	さっぽろ文庫別冊 いまむかし札幌を歩く<第一部>	札幌市 札幌市教育委員会	1988年(S63)	
58	さっぽろ文庫別冊 いまむかし札幌を歩く	札幌市	1989年(H1)	

	<第二部>	札幌市教育委員会		
59	さっぽろ文庫別冊 いまむかし札幌を歩く <第三部>	札幌市 札幌市教育委員会	1990年(H2)	

※今後、上記調査等内容について確認整理を行い概要記載予定

※今後、調査を充実させるべき文化財の種類や分野、補足すべき項目等について検討・記載

【平成27年度以降の調査】

<建造物等の文献・現地調査>

平成27年度から平成29年度にかけて、「建造物」「歴史資料」「土木構造物」について文献及び現地調査を実施しました。

建造物については文献調査にて約600件把握したもののうち、163件について、土木構造物については文献調査にて約220件把握したもののうち、37件について現況調査を実施し、個別シートを作成しました。歴史資料については市内の郷土資料館について所在地や収蔵リストの概要をまとめ、各資料館の独自のものや、民具等資料館に共通するキーワードを抽出しました。

<文献調査>

平成29年度に新札幌市史（第1巻～第8巻）、さっぽろ文庫別冊（4シリーズ11冊）から、有形、無形を問わず、文化財的分類に該当し、かつ、建築・制作・発祥等から50年以降経過しているもの、年代不詳の文化財約9,100件を抽出し、併せてこれらの文化財について札幌の特徴を表す「キーワード（開拓使、お雇い外国人、札幌農学校、和洋折衷、屯田兵、アイヌ文化、オリンピック、雪、レンガ、軟石、市電、定山溪鉄道、玉葱栽培、りんご栽培、ビール、産業・農業、水道、定山溪温泉、創成川、豊平川）」との関連状況を整理しました。

(2) 構想策定と合わせて実施した文化財調査

1) 文化財募集市民アンケート

① WEBアンケート及び公募による市民アンケート（別紙参照：参考資料-3）

市民が考える自分が住む地域の文化財＝「大切なもの」や「失いたくないもの」、「なくなっては寂しいもの」を広く収集するため、紙媒体や市ホームページ、広報さっぽろ等を活用した募集と、短期間かつ効率的な収集のためのウェブアンケートを実施しました。

【調査方法】

調査名	札幌市の歴史文化に関するアンケート調査
調査地域	札幌市内全域
調査対象	18歳以上の札幌市民(男女問わず)
回収数	555件 (WEB 500件、FAX・メール55件)
抽出方法	WEBモニター (楽天リサーチ登録者：約45,000人) 広報さっぽろや札幌市HPでの告知、各まちづくりセンター等への設置
調査方法	WEB送配布・FAX・メール回収
調査期間	WEB：平成30年8月1日(水)～平成30年8月2日(木) 広報さっぽろHP：平成30年8月〇〇日()～ 9月28日(金)
設問	1. 自分の身近な地域のお宝＝「大切なもの」や「失いたくないもの」「なくなっては寂しいもの」はどんなものですか。 (自由記述) 2. 札幌の歴史文化を物語る上でイメージする代表的なものはなんですか。(選択式)

【アンケート結果】

<回答者属性>

- ・性別では男性が58.0%と女性(42.0%)よりやや多くなりました。
- ・年齢別では「40代」が30.3%と最も多く、次いで「50代」が27.2%となっており、『40代以上』が8割を占めています。
- ・居住区別ではWEBアンケートにて10区同数取得しているため、概ね同数となりました。

<札幌の歴史文化を物語る上でイメージする代表的なもの(選択式)>

札幌の歴史文化を物語る上でイメージする代表的なものは、「札幌農学校」が48.8%と最も多く、次いで「屯田兵」(44.7%)、「開拓使」(44.5%)などとなりました。

また、「その他」の内容としては、「大友堀」4件、「札幌村」3件、「すすきの」2件、「神社・鉄道」などが挙げられました。

<自分の身近な地域のお宝について（自由記述）>

札幌市の歴史文化アンケートについて、自分の身近な地域のお宝（「大切なもの」や「失いたくないもの」）について記載された内容をお宝が存在する区毎の上位2つ（同数がある場合それ以上）を表にまとめました。記入者数 497人（男性285人、女性212人）記入率89.5%、意見数は789件でした。

区	名称	件数	お宝だと思う理由（一部抜粋）
中央区	時計台	21	札幌のシンボル／人口 200 万に迫る札幌市の開拓時代の風景を伝えるものだから。
	大通公園	20	札幌を代表する公園、四季折々の取り組みが素晴らしい／町なかにあんな巨大な公園のある町はなかなかない。いろんなイベントが行われ、これがないと札幌ではない。
北区	J R 篠路駅前 石造・レンガ倉庫群	12	篠路の歴史を伝える札幌軟石造りの建物／3 棟が軟石倉庫で昭和 20～30 年に建ち、篠路地域の玉ねぎ集荷・出荷に利用。篠路の農業発展に寄与した。
	北海道大学	8	開拓使の知恵もあったが北海道を代表する大学／主要駅から徒歩で接する事が出来る植物園や校内の原始林群域は一旦開発してしまうと取り戻すことができない貴重な存在。
東区	モエレ沼公園	6	広く市民の健康増進に貢献する。入場料無料で素晴らしい施設／自然と憩いの公園。
	サッポロビール園・工場・博物館	5	旧ビール工場跡地に作られたビール園。レンガ造りの建屋をそのまま使っています。／開拓時代の歴史を感じる。
白石区	白石こころード（サイクリングロード）	4	身近に自然が感じられ四季折々の季節を肌で感じながら散歩が出来る。／北広島まで続くサイクリングロード
	白石神社	4	北海道で 2 番目に大きな神社／古くからあり、地域に根付いている。
厚別区	百年記念塔	16	老朽化で問題も多いが、街のシンボルなので宝です。／厚別区ですが、開道 100 年を記念して作られたモニュメントです。残念ながら老朽化が進み取り壊しが決まっています。／遠くからでも見えて、見ると地元に戻ってきた気がする。
	開拓の村	9	昔の建物が移築され、タイムスリップしたような体験が出来る。／昔の歴史的な建物が多く、歴史を感じる事ができるため後世に伝えるためにもぜひ長く存続してもらいたい。
	札幌軟石	9	歴史の浅い北海道で、数少ない歴史を感じられるから／歴史的建造物などにも使われた。
豊平区	札幌ドーム	10	清田区に隣接しており、色々なアーティストが来るから／野球もサッカーも屋内で楽しめる北海道の気候によくあったスタジアム／日本ハムファイターズが移転した後、どんだけの負債を抱えて行かなければならないのか観察し甲斐のある負のお宝。
	八紘学園	3	ポプラ並木とジンギスカン園に向かったの道が北海道そのもの。牛舎があったり、初夏には菖蒲園が開かれる。
	天神山	3	アイヌ民族の岩だった場所がある／小高い山ですが札幌都心部が一望できる／緑が多く、散歩やジョギングコースとして地元民に親しまれている。
清田区	平岡梅林公園	8	自然の中に広がる梅林がとてもきれい／梅林や湿地沼など、都会にあって自然が味わえる。／札幌で一番の梅園がある。
	三里塚神社	2	開拓の歴史を感じさせられる。／住宅地になる はるか前から存在している。
	平岡樹芸センター	2	春には桜や梅などが咲き秋には紅葉が素晴らしい。庭園風に手入れされた植木もあり藤棚もある。誰でも無料で入場できる憩いの場所です。

区	名称	件数	お宝だと思う理由
南区	真駒内公園	8	オリンピック施設を含め南区のシンボルだから／自然もいいし、春には桜がきれいだし四季折々楽しめる自然がある／広く、自然が多いので、地域住民の憩いの場となっている。
	ボザール橋	8	当地発展の以前、地域住民の熱望により架かった吊橋である。また今では芸術の森、美術館と関口美術館の連携、及び自然豊かな真駒内川との風景に溶け込み、貴重な地域住民の財産であり、是非、後世に残したい。
西区	琴似屯田兵屋	6	屯田兵の歴史に関する、貴重な建物／北海道の数少ない歴史的建造物／西区地区は屯田兵が入植した土地で、当時の入植数が地名にもなっています。(八軒や二十四軒等)又当時の屯田兵屋も国の史跡として残っており、原野から開墾し困難に立ち向かい、現在の都市への変遷は忘れていけない地域の歴史です。
	農試公園	4	旧国立農業試験場の跡地を活用した公園／広い、桜がきれい、散歩や花見に最適
	地名	4	この地に初め二十四軒の家があったという地名の由来／初めは家八軒から始まったんだよね。
手稲区	手稲山	9	札幌五輪の聖地／特異な形成過程と容姿／誰もが知っている山、冬のスキー場から夏の登山まで一年中、市民が利用出来る山
	山口運河	5	歴史がある／毎年お祭りをしていること。運河の名残が残っていること。
全域	自然	51	広大で、大地のエネルギーを感じる。／都市部なのに、とても緑に囲まれる環境です。／都会に近いのに、自然が豊富で、動物もたくさん見ることが出来る。／何物にも代えられない北海道の宝物
	札幌軟石	9	歴史の浅い北海道で、数少ない歴史を感じられるから／歴史的建造物などにも使われた。

② 連合町内会長アンケート（別紙参照：参考資料-3）

地域の身近な文化財の抽出及び、平成30年11月23日に開催予定のシンポジウム時に「わたしたちのお宝写真展～連合町内会長さんが選ぶ！地域の文化財～」としてパネル展示を行うことを目的に、市内90の連合町内会の会長に、地域一押しの文化財を問うアンケートを実施しました。

【調査方法】

調査名	連合町内会長さんが選ぶ地域のお宝アンケート調査
調査地域	札幌市内全域
調査対象	札幌市内の連合町内会長（及びまちづくりセンター所長）
回収数	35件（配布数〇〇件、回収率〇%）
調査方法	郵送配布・FAX・郵送・メール回収
調査期間	平成30年〇月〇日（）～平成30年10月19日（木）

<アンケート結果>

番号	区別	連合町内会名	お宝の名称
1	中央区	本府地区連合町内会	本府地区(第一祭典区)山車
2		東北連合町内会	東北第9祭典区山車
3		苗穂連合町内会	苗穂駅前広場
4		中央区東地区連合町内会	札幌開祖吉田茂八碑
5		豊水地区連合町内会	大典記念文庫
6		一般社団法人 西創成親和会	西創成祭典区 山車
7		円山町内会連合会	馬頭大神
8		桑園地区連合町内会	桑園碑
9	北区	鉄西連合町内会	明治・大正期を偲ばせる旧借楽園一帯(清華亭・借楽園緑地井頭龍神)
10		幌北連合町内会	幌北ふるさと夏祭り
11		新川さくら並木	新川さくら並木
12		新琴似連合町内会	新琴似歌舞伎伝承会
13		麻生連合町内会	亜麻の花(あさぶ亜麻保存会)
14		篠路連合町内会	篠路子ども歌舞伎
15		屯田連合町内会	屯田郷土資料館
16	東区	北光連合町内会	宗教法人「大願寺」
17		栄東連合町内会	日の丸農場跡(ひのまる公園)
18		元町まちづくり連合会	元村街道(ななめ通り)～道道 273 号 花畔札幌線
19		東区苗穂連合町内会	苗穂小学校 学校記念館
20	白石区	白石地区連合町内会	開田碑
21		北白石連合町内会	白石開拓百年記念碑
22		北東白石連合町内会	「北都公園」の碑
23	厚別区	厚別南町内会連合会	陽だまりロード
24		厚別東町内会連合会	北海道博物館
25	豊平区	豊平地区町内会連合会	ことわざ「豊平橋とかけてなんと説く」「錆びた刀と説く」その心は「人が切れない」
26		西岡地区町内会連合会	坂のあるまち 西岡
27	清田区	里塚・美しが丘町内会連合会	三里塚神社・三里塚小学校・三里塚の碑
28	南区	藻岩下地区連合会	石碑【明治大帝御巡幸の碑】・上山鼻神社
29		真駒内地区連合会	札幌五輪 ジャネット・リンさんのサイン 真駒内駐屯地サイロ隊舎
30		石山地区町内会連合会	いしやまキャンドルナイト
31		定山溪連合町内会	豊平峡ダム、定山溪ダム
32	西区	八軒中央連合町内会	琴似中央小学校金管バンド「KT ハー モニ」
33		二十四軒連合町内会	屯田兵二十四軒開拓記念碑
34		西町連合町内会	社会福祉法人宏友会西野ディサービスセンター(施設の中庭・藤棚)
35		西野連合町内会	福井ばやし

○シンポジウム参加者へのアンケート

○まちあるきイベント参加者へのアンケート

2) 郷土資料館へのヒアリング・アンケート（スクリーニング調査）

膨大に所蔵された郷土資料館（13館）の収蔵品・資料等の中から、その地域の歴史文化の特徴をよく物語っていると思う収蔵品・資料等について、その意味付けも合わせて伺いながら抽出するヒアリング・アンケートを実施します。

3) 市民ワークショップ（『れきぶんワークショップ』）（別紙参照：参考資料-4）

全市を対象に、WEBアンケート、広報、札幌市HPで参加者を募集し、「札幌の歴史文化を学ぶ」「文化財を出し合う」「つながりを考える」「現地調査の実施」「関連文化財群のストーリーづくり」「市民に発信する（シンポジウム）」といった一連の連続講座として『れきぶんワークショップ』を実施しました。

【ワークショップ第1回】

日時：平成30年（2018年）8月25日（土）10：00～16：00

場所：佐藤水産本店 3階 文化ホール

参加者：公募市民 25名

ヘリテージマネージャー・コーディネーター 9名

内容：①講演「札幌再発見 札幌の街のなりたち」

（札幌市文化財保護指導員 松岡洋一氏）

②地域のお宝の共有、地域らしさを表すお宝の選出など居住地域ごとのグループに分かれて意見交換



【現地調査】

日時：平成30年（2018年）9月中旬～下旬

場所：札幌市内各地

参加者：第1回ワークショップ参加者

内容：地域らしさを表すお宝について調査する

※各グループの調査日と調査場所

グループ	調査日	調査場所
手稲区	9/14(金) 13:00～	手稲記念館、手稲西小学校資料館（鉦山の部屋）
北区	9/15(土) 9:30～	新琴似神社、北海道大学
白石区・厚別区	9/19(水) 10:00～	白石郷土館、JR白石駅、やなぎ公園など
東区	9/22(土) 10:00～	札幌村郷土記念館、ななめ通り、サッポロビール博物館
中央区	9/22(土) 11:00～	電車事業所、界川遊歩道
豊平区・清田区・南区	9/28(金) 14:00～	福住開拓記念館、八紘学園
西区	9/29(土) 13:30～	シルバーロッジ、五天山公園、琴似屯田兵村兵屋跡



中央区（電車事業所）



東区（札幌村郷土記念館）



清田・豊平・南区（福住開拓記念館）



西区（五天山公園）

【ワークショップ第2回】

日時：平成30年（2018年）10月14日（日）13：00～16：00

場所：佐藤水産本店 3階 文化ホール

参加者：公募市民 20名（第1回ワークショップ参加者より）

 ヘリテージマネージャー・コーディネーター 9名

内容：シンポジウムでの発表（パネル展示）に向けた調査結果の取りまとめ



説明



意見交換



意見交換



発表

4) まちあるきツアー

文化財保護指導員がまちあるきツアーで対象とした見どころについて、その解説内容も合わせて抽出整理します。

これまでの実施例：創成川東地区の今昔～吉田茂八碑、北海道神宮頓宮、創成橋など

3. 文化財の現状

(1) 指定・登録等の文化財

【文化財の指定・登録状況】

	有形文化財		無形	民俗	記念物	計
	建造物	美術工芸品等			史跡・天然記念物	
国指定	7	4	1	1	4	17
道指定	2	2	0	0	0	4
市指定	4	5	1	0	2	12
計	13	11	2	1	6	33
国登録	24					24
合計	37	11	2	1	6	57

1) 有形文化財（建造物）

<重要文化財>

名称	所在地	所有者	指定年月日	摘要
八窓庵 (旧舎那院忘筌)	中央区中島公園1番	札幌市	昭25. 8.29	江戸初期の茶人小堀遠州(1579~1647年)の晩年の作と伝えられる草庵風の茶室。
豊平館	中央区中島公園1番20号	札幌市	昭39. 5.26	明治13年に開拓使が建てた洋風建築物で、明治初期のホテル建築の貴重な遺構。
北海道庁旧本舎庁 (赤れんが庁舎)	中央区北2・3条西5・6丁目	北海道	昭44. 3.12	明治21年に建てられた米国風ネオ・バロック様式の官庁建築物。
北海道大学農学部 (旧東北帝国大学農科大学) 第二農場	北区北18・19条西7・8丁目北海道大学構内	国立大学法人北海道大学	昭44. 8.19	明治42年から本道酪農の模範農場として造られた。耕馬舎、穀物庫等全9棟。
旧札幌農学校演武場 (時計台)	中央区北1条西2丁目	札幌市	昭45. 6.17	米国中西部建築様式の影響を受けた実用的な建築で、明治11年に開拓使が建築。
北海道大学農学部 植物園・博物館	中央区北3条西8丁目北海道大学植物園内	国立大学法人北海道大学	平1. 5.19	明治15年建築の博物館本館 同33年建築の博物館事務所 同17年建築の博物館倉庫 同44年建築の植物園門御所など
旧開拓使工業局庁舎	厚別区厚別庁小野幌(北海道開拓の村内)	北海道	平25. 8. 7	明治10年に札幌市街中心部に建設され、昭和54年に北海道開拓の村に創建時の姿で移築された。明治初期の北海道開拓を支えた開拓使工業局の工作場の現存唯一の遺構。

<道指定有形文化財>

名称	所在地	所有者	指定年月日	摘要
琴似屯田兵屋	西区琴似1条7丁目琴似神社境内	琴似神社(管理 琴似屯田保存会)	昭39.10. 3	明治8年に入植した北海道最初の屯田兵村の兵屋の1棟で、兵屋番号140番の遺構。
旧永山武四郎邸	中央区北2条東6丁目2番地	札幌市	昭62.11.27	第2代北海道庁長官永山武四郎の私邸で、明治10年に建築された和洋折衷の住宅。

<市指定有形文化財>

名称	所在地	所有者	指定年月日	摘要
清華亭	北区北7条西7丁目	札幌市	昭36. 6. 7	札幌最初の講演「偕楽園」に明治13年貴賓接待所として建築。
新琴似屯田兵中隊本部	北区新琴似8条3丁目	札幌市	昭49. 4.20	明治19年に新琴似屯田兵村の本部として建築されたもので、週番所(中隊本部)としては札幌に

				おける唯一の遺構。
旧黒岩家住宅（旧簾舞通行屋）	南区簾舞1条2丁目	札幌市	昭59. 3.28	明治5年に有珠新道の交通の要所となるミソマップ（簾舞）に建築されたもので、札幌における通行屋の唯一の遺構。
札幌市資料館（旧札幌控訴院）	中）大通西13丁目	札幌市	H9. 5. 7	大正15年委建てられた、煉瓦・軟石・RC構造の洋風建築物。

<登録有形文化財>

名称	所在地	所有者	登録年月日	摘要
北海道大学古河記念講堂（旧東北帝国大学農科大学林学科教室）	中）北9条西7丁目北海道大学構内	国立大学法人北海道大学	H9. 9. 3	明治42年に建てられた、フランス・ルネサンス風の木造建築物。
北星学園創立百周年記念館（旧北星女子宣教師館）	中）南4条西17丁目	北星学園	H10. 9. 2	大正15年、スイスイ人建築課ヒンデルが実施設計し建てた洋風建築。
日本キリスト教団札幌教会（旧札幌美以教会堂）	中）北1条東1丁目	札幌教会	H10. 9. 2	明治37年に建てられた、ロマネスク風の教会建築。
北海道知事公館（旧三井クラブ）	中）北1条西16丁目	北海道	H11.10.14	昭和11年に三井家札幌別邸新館として建てられた、ハーフトインパーの洋館。
杉野目家住宅	中）南19条西11丁目	個人所有	H11.10.14	昭和8年に建てられた、チューダー様式による集中暖房住宅。
北海道大学農学部博物館バッチェラー記念館	中）北3条西9丁目北海道大学植物園内	国立大学法人北海道大学	H12. 4.28	明治31年建築のバッチェラー博士の旧宅を移築した、総2階建、全面下見板張の洋館。
北海道大学附属植物園庁舎（旧札幌農学校動植物教室）※現 宮部金吾記念館	中）北3条西8丁目北海道大学植物園内	国立大学法人北海道大学	H12. 4.28	明治34年建築、昭和17年に建築の一部を移築したもの。木造2階建。
北海道大学旧札幌農学校昆虫及養蚕学教室	北）北3条西8丁目北海道大学構内	国立大学法人北海道大学	H12. 4.28	明治34年に建てられた、I字型平面を持つ木造平屋建の建物。
北海道大学旧札幌農学校図書館読書室	北）北9条西8丁目北海道大学構内	国立大学法人北海道大学	H12. 4.28	明治35年に建築された、T字型平面を持つ木造平屋建の図書館閲覧棟。
北海道大学旧札幌農学校図書館書庫	北）北9条西8丁目北海道大学構内716-2111	国立大学法人北海道大学	H12. 4.28	明治35年に建築された、煉瓦造2階建、切妻造りの倉庫建築。
エドウィン・ダン記念館（旧北海道庁真駒内種畜場事務所）	南）真駒内泉町1丁目	札幌市	H12. 9.10	明治20年建築。下見板張、寄棟造で、正面中央の玄関及び屋根窓は切妻造。
旧西岡水源池取水塔	豊）西岡公園内	札幌市	H13. 8.28	明治42年に建築された水道施設の遺構の一部。
黒田家住宅（主屋・蔵・表門・石塀）	中）南13条西7丁目	黒田合資会社	H22. 9.10	大正13～15年に建築された大正末の地域の建築事情を知る上で、貴重な住宅。
沼田家住宅旧りんご倉庫	豊）西岡4条10丁目	個人所有	H24. 8.13	昭和28年建築。整った意匠が特徴の煉瓦造倉庫。
柳田家住宅旧りんご蔵	豊）平岸2条5丁目	個人所有	H24. 8.13	大正後期に建てられた、草創期の煉瓦造りんご貯蔵庫。煉瓦造2階建て
遠藤家住宅（主屋・蔵・南石蔵・北石蔵・表門・塀）	中）南6条西5丁目	個人所有	H26.10. 7	大正8年頃建築。札幌軟石と煉瓦の塀で囲まれ、洗練された意匠を持つ近代和風建築。

2) 有形文化財（美術工芸品等）※文献・資料・生活用品

<重要文化財>

名称	所在地	所有者	指定年月日	摘要
太刀 銘国俊	—	個人所有	昭8. 1.23	山城国粟田口の刀鍛冶、国俊作の太刀。刃文は甘美ではないが鍛えが優れており、古来名刀として名高い。
刀 無銘伝来国行	—	個人所有	昭31. 6.28	その作風と優れた技量からみて来派の作と鑑定されるもので、国行の作と見られる健全な名刀。

箱館奉行所文書	中央区北3条西6丁目北海道立文書館	北海道	平16.6.8	神奈川条約に基づいて設置された箱館奉行所及び出先機関で作成・受理された167点の文書。
開拓使文書	中央区北3条西6丁目北海道立文書館	北海道	平26.8.21	明治2年に設置された北海道・千島・樺太を管轄した開拓使の文書。

<道指定有形文化財>

名称	所在地	所有者	指定年月日	摘要
札幌市K-446遺跡出土の遺物	中央区南区22条西13丁目札幌市埋蔵文化財センター	札幌市	昭55.8.12	捺文時代の土器、土製支脚、紡錘車の合計17個。
新琴似村屯田兵村記録	北区北8条西5丁目北海道大学付属図書館	国立大学法人北海道大学	平28.3.31	北区新琴似地区に入植した屯田兵の明治中期～昭和初期の自治活動に関する記録。

<市指定有形文化財>

名称	所在地	所有者	指定年月日	摘要
木造日蓮聖人坐像	中央区南11条西19丁目豊葦山妙心寺	豊葦山妙心寺	昭56.7.21	彩色寄木造りで、僧日住が厄除けのため寛文6年(1666年)に造立したもの。
旧琴似川流域の竪穴住居跡分布図	中央区南22条西13丁目札幌市埋蔵文化財センター	札幌市	平16.8.25	明治27・28年頃高畑宜一氏により作成された、市内都心部から北区麻生町付近までの捺文文化(約1300年～800年前)の竪穴住居跡の窪みを約720ヶ所記録した分布図。
札幌市N30遺跡出土品	中央区南22条西13丁目札幌市埋蔵文化財センター	札幌市	平16.8.25	平成7・8年に、西区二十四軒4条1丁目で発掘調査された縄文時代後期から晩期(約3700～2300年前)の出土品(1413点)。縄文時代晩期末の墓からは、土偶やサメの歯も出土。
札幌独立キリスト教会文書	中央区大通西22丁目札幌独立キリスト教会	札幌独立キリスト教会	平28.7.28	クラーク博士起草の「イエスを信ずる者の契約」等、明治初期の文書計7点。
札幌村・大友亀太郎関係歴史資料及び史跡	東区北13条東16丁目札幌村郷土記念館	札幌市	昭62.2.20	慶応(1866年)、札幌村は大友亀太郎によって開拓が進められ、その後、玉葱栽培の先進地として発展した。これらの歴史資料及び役宅跡。

3) 無形文化財

<市指定無形文化財>

名称	所在地	所有者	指定年月日	摘要
丘珠獅子舞	東区丘珠(保持団体住所)	丘珠獅子舞保存会	昭49.10.25	明治25年に富山県からの移住者によって伝えられ、伝承してきた獅子舞。

4) 民俗文化財

<国指定重要有形民俗文化財>

名称	所在地	所有者	指定年月日	摘要
アイヌのまるきぶね	中央区北3条西8丁目北海道大学植物園 北方民族資料室内	国立大学法人北海道大学	昭32.6.3	シイク・トヨタリケ氏によって、大正末期に製作。

<国指定重要無形民俗文化財>

名称	所在地	所有者	指定年月日	摘要
アイヌ古式舞踊	南区小金湯27 札幌市アイヌ文化交流センター(保護団体事務局)	札幌ウポポ保存会	平6.12.21(保護団体指定)	北海道に移住しているアイヌ民族に伝承されている芸能。

5) 天然記念物

<国指定天然記念物>

名称	所在地	所有者	指定年月日	摘要
円山原始林	円山	林野庁	大 10. 3. 3	海拔 266mの山で 390 種の植物分布がみられる。
藻岩原始林	藻岩	林野庁	大 10. 3. 3	414 種の冷温帯の豊富な植物分布がある。海拔 531m。

<国指定史跡>

名称	所在地	所有者	指定年月日	摘要
開拓使札幌本庁本庁舎跡 および旧北海道庁本庁舎	中央区北 2・3 条西 5・6 丁目	北海道	昭 42. 12. 15	明治 6 年 10 月に建築された開拓使札幌本庁舎跡。
琴似屯田兵村兵屋跡	西区琴似 2 条 5 丁目	札幌市	昭 57. 5. 7	明治 7 年に建設された北海道最初の屯田兵村の兵屋跡で兵屋番号 133 番。

<市指定史跡>

名称	所在地	所有者	指定年月日	摘要
手稲山口バッタ塚	手稲区手稲山口	札幌市	昭 53. 8. 21	明治 16 年にトノサマバッタの大群を駆除するために、大量の卵のうを埋めた畝状の塚跡。
札幌村・大友亀太郎関係 歴史資料及び史跡	東区北 13 条東 16 丁目 札幌村郷土記念館	札幌市	昭 62. 2. 20	慶応 (1866 年)、札幌村は大友亀太郎によって開拓が進められ、その後、玉葱栽培の先進地として発展した。これらの歴史資料及び役宅跡。

6) 埋蔵文化財

本市は、昭和48年、埋蔵文化財の保護と調和のとれた都市づくりを図るため、保護指導と発掘調査の体制を整備するとともに、包蔵地の所在について詳細な調査を行い、この分布図と台帳の整備を行いました。現在までに、541箇所（平成30年4月現在）の包蔵地を確認しています。

(2) 札幌市景観計画制度による指定等

1) 景観重要建造物、景観重要樹木（景観法に基づく指定）

歴史や文化など地域の景観を特徴付けている建造物及び市民や観光客に親しまれている建造物など景観形成上重要な価値のある建造物を景観重要建造物として、自然、歴史、文化などから見て地域のシンボリックな存在として景観を特徴付けている樹木や市民に親しまれている樹木などを景観重要樹木として指定しています。

2) 札幌景観資産（札幌市景観条例に基づく指定）

景観形成上価値があると認められる建築物等、樹木、その他の物で、意匠、様式（樹木にあっては樹木の姿）等が良好な景観を特徴付けているものや将来のまちづくりに生かされる可能性のあるものなどを札幌景観資産として指定しています。

3) 活用促進景観資源（札幌市景観条例に基づく登録）

建築物、工作物、樹木、これらが一体をなしている区域、活動等に該当するもので、良好な

景観の形成上価値があると認められるものを活用促進景観資源として登録しています。一定の制限がある既往の制度とは異なり、市民等に広く周知することに主眼を置き、市民等の関心を喚起し、良好な景観の形成に向けた活用の可能性を広げることを目的としています。

(3) 地域独自の選定等による既知の文化財

1) さっぽろ・ふるさと文化百選

昭和63年（1988年）に札幌創建120周年を記念して、市内の建物46件、遺跡26件、街並み19件、用具5件、まつりや行事など4件の計100点を「さっぽろ・ふるさと文化百選」に選定しました。北国の生活の息吹と開拓の労苦を伝える身近な文化遺産を再発見し、市民自らの手でこれを守り、後世に伝えていくことが目的とされています。

また選定方法は、市民からの応募と各区や郷土資料館等からの提供資料の計241件について、有識者7人からなる選定委員会における選考に基づき決定しました。基本的に重要文化財や登録有形文化財は選定から除外されていますが、百選の決定後に文化財に指定や登録されたものもあります。

昭和63年11月に選定結果を公表し、平成元年に、選定物件の由緒・由来や関係写真などを記したモニュメントが設置されたり、パンフレットが配付されました。しかし、都心の開発などにより解体・閉鎖されているものもあり、実際には100件を見ることはできません。

2) 歴史の散歩道（中央区）

明治の初めから現在まで受け継いだ貴重な財産を区民のみなさんに知ってもらうために、これまで街づくりなどに功績のあった人物や歴史的に貴重な建築物、地名の由来などを取り上げ、平成5年5月から平成17年2月まで、広報さっぽろ中央区版に連載していました。

広報さっぽろで100回の連載を終えた際、人物、建物、地名の由来といった種類ごとに整理をし、まとめた冊子を発刊するとともに、区のホームページにも掲載しています。

3) 北区歴史と文化の八十八選

北区には開拓碑や文学碑、古い建築物などの文化遺産が数多く存在しており、それらを守り、さらに後世に伝えていくために、区内の文化遺産の中から88箇所を選定しました。

選定基準は、(1)歴史的に由緒・由来あるもの、(2)市民の身近な生活史に根ざしたもの、(3)地域のシンボルとして役割を果たしてきたもので、この基準をもとに郷土史家などで構成された選定委員会で決定しました。

また、区内を(1)文学と学問の道、(2)水辺と開墾の道、(3)森と歴史の道、(4)農村文化発祥の道、(5)藍の道の5つのコースに分け、それぞれのコース内の案内板に書かれたキーワードをつなぎあわせると1つの文章になり、5つの文章を完成させた人は賞品がもらえます。このように、88箇所の文化遺産を多くの人にもらうための取り組みもあります。

4) みどころ（東区）

東区の文化施設や公園、観光名所等を地区別・分野別にまとめており、概要のほか、アクセス方法や休館日などの利用情報が区のホームページに掲載されています。

5) 白石歴しるべ

白石村の誕生から現在の白石区ができるまでに関係がある史跡や建築物をまとめていて、白石区の歴史を知ることができるホームページです。

イラストマップがあり、所在地とその史跡や建築物などの情報を同時に知ることができます。また、史跡や建築物などの情報はそれぞれがPDFファイルにまとめられており、それぞれの歴史の詳細が書かれています。

6) あつべつ見聞録（厚別区）

厚別区では、「ふれあい街づくり事業」の一環として、こうした歴史や自然をはじめ、さまざまな魅力に富んだ街並みや施設などを、区民の皆さんから「わたしのお気に入りのあつべつ」としてお寄せいただき、「わたしのあつべつ100」として選定しています。平成2年に73カ所でスタートした「わたしのあつべつ100」も、平成15年の第4次募集により、合計95カ所となりました。

「あつべつ見聞録」は「わたしのあつべつ100」を紹介するとともに、同じく「ふれあい街づくり事業」として、地域の皆さんの手によって花々で彩られる各地区の「シンボルロード」なども掲載しています。

7) 見どころ案内（豊平区）

豊平区の公園や観光施設等の概要について、見どころ案内として区のホームページに掲載されています。

また、区内各地区の歴史やシンボルなど、区の魅力を集めた豊平区オリジナル「カルタ」を作成しており、子どもをはじめとする区民に広く活用いただくことで、地元への愛着を育むとともに、カルタを通じた地域交流の活性化を目指しています。カルタは豊平区役所や区内のまちづくりセンターで貸出を行っています。

8) 名所・見所案内（清田区）

清田区の公園や神社、橋といった名所・見所をホームページに掲載しており、各所の概要やアクセス方法などがまとめられています。

9) ふるさと小百科（南区）

平成9年6月に、「南区のふるさと意識の高揚とまちづくりの連帯の輪を広げていく」ことを目標として、南区の各地区連合町内会の広報担当部長と南区役所が共同で編集にあたり、約3年の編集期間を経て、南区の区制25周年を記念する冊子として発行されたものが「みなみ区ふるさと小百科（冊子版）」です。

冊子版では約1000項目にわたった項目を、ウェブ化する際に碑や銅像、場所といったものに集約し、区のホームページで公開を行っています。

10) 西区まちナビ（西区）

西区内の自然豊かな名所や公園のほか、公共施設や文化施設などを紹介した、西区ならではの魅力がたっぷり詰まった冊子です。

三角山をはじめとした美しい自然や、開拓の祖である屯田兵ゆかりの建物といった名所だけではなく、人気有名スイーツ店など西区自慢のお店を紹介しています。

11) 手稲区史跡ガイドホームページ

昔のマップと今のマップを見比べることで手稲区の歴史を知ることができるホームページです。マップ上の史跡をクリックすると、所在地やその史跡の説明を見ることができます。

また、手稲の歴史と歴史遺産の研究を行っている手稲郷土史研究会と協力して作成された「歴史ガイドブック」は手稲区役所でもらうことができます。それは紙製で、史跡の所在地や情報が載っているので、史跡探索のとき便利です。

（４）その他の既往・新規調査による文化財

※調査により整理された文化財の概要説明、数などを記載

※課題等あれば合わせて記載

（５）文化財のデータ化の現状

既知の文化財、既往調査により収集した文化財、市民アンケート・郷土資料館へのヒアリング・アンケート（スクリーニング調査）・ワークショップ等により収集した文化財のデータ化を実施し、●●●件のリスト化を行いました。

※今後も継続した文化財のデータ化を実施する。

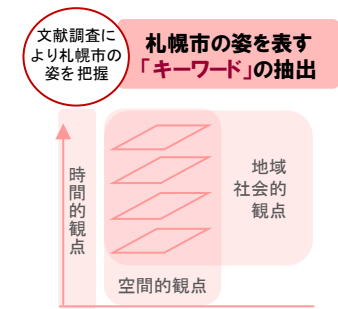
4. 札幌市の歴史文化の特徴

(1) 歴史文化の特徴の整理の考え方

札幌市の歴史文化の特徴を整理するため、本構想策定においては、以下のステップで検討を進めました。

1) 札幌市の姿を表す「キーワード」を抽出

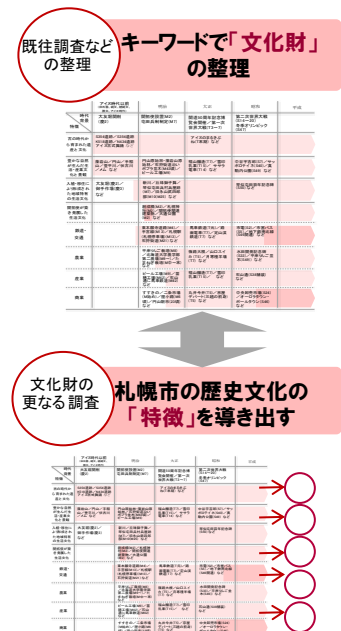
札幌市の自然環境、社会的環境、歴史的環境についての文献調査を行い、空間的（自然・地形）観点、地域社会的（地域・社会・生活）観点、時間的（歴史）観点から札幌市を表す「キーワード」を抽出します。



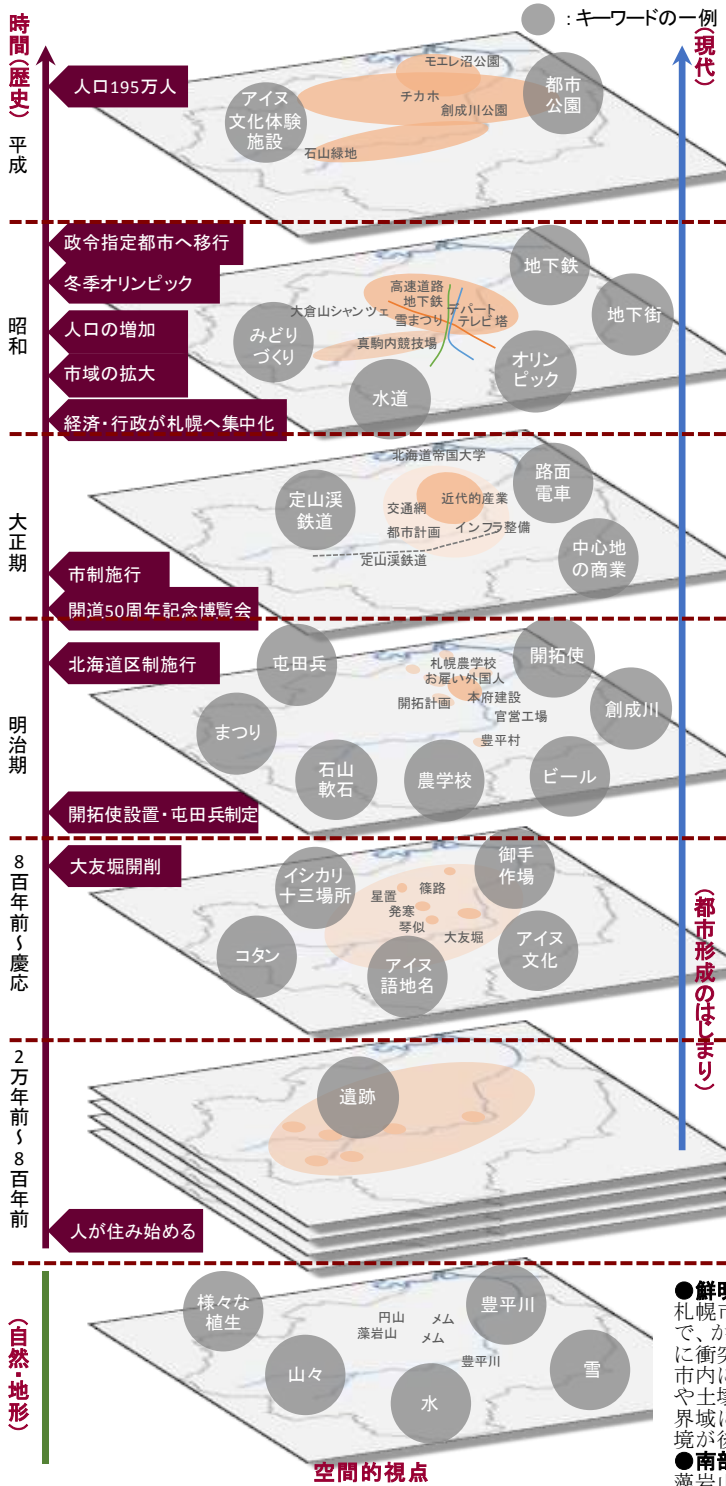
2) キーワードで文化財を整理し、歴史文化の特徴を整理

札幌市の姿を表すキーワードを歴史的（時間）観点、地域社会的（地域・社会・生活）観点、空間的（自然・地形）観点に関連するものにまとめ、既往調査や本構想策定にあたって整理された札幌市の文化財を、まとめられたキーワード毎に整理します。

まとめられたキーワード毎に文化財を整理する際は、その文化財について文献調査や聞き取り調査等を実施し、その背景や他文化財との関係性等を把握しながら行い、そこから札幌市の歴史文化の特徴を導きます。



●札幌市の姿を表す「キーワード」の抽出（概念図）



●都市の成熟期におけるまちづくり

平成に入ってから都市機能の集積化が進み、人口も緩やかに増加しているが、全都市計画マスタープラン策定後は市域を拡大していない。都心部の都市再生の取組により、札幌駅前通地下歩行空間の整備や創成川公園の整備を実施。第三次産業が盛んとなり、なかでも観光が重要な柱の一つとなっている。

●冬季オリンピック札幌大会の開催

冬季オリンピックの開催が決定すると、市役所新庁舎、地下街などが相次いで完成、地下鉄の開通や民間企業の建設ラッシュが起こりました。

●本格的な都市計画事業の実施

昭和に入ると経済や行政機能の札幌への集中化が進み、昭和2年には都市計画区域が設定されました。この後都市計画による事業(街路整備、風致地区、公園整備)に加え、上下水道、道路、交通体系の整備等が実施されました。

●市政の施行

大正11年には市制を施行し、その翌年には旧都市計画法が適用されました。

●北海道開道50周年記念博覧会の開催

大正に入ると企業や金融機関の市内への進出が進み、馬鉄や定山溪鉄道等の公共交通が発展しました。また大正7年の開道50周年記念博覧会の開催等により商業活動が活性化しました。

●総合的な交通ネットワーク

現在の国道5号、12号、36号となる周辺都市間や村落間を結ぶ道路が形成、札幌手宮間の鉄道が開通する等大交通網が整備されました。

●開拓使が進めた都市形成

明治2年に開拓使が札幌に本府建設を開始、市街地の開発を進めました。先進国の農業、産業、学業の導入のため葡萄や試験農場や各種工場(ビール、生糸、石山軟石等)、農学校が設置しました。明治7年に屯田兵制度が制定され、琴似や山鼻等市街地周辺の開拓が進みました。

●入植による蝦夷地開拓

大友亀太郎が慶応2年に御手作場の開発に着手、同時に大友堀を開削しました。

●イシカリ十三場所の設置

17世紀後半に、石狩地方にも藩士の知行の代わりに与えるところの商場が設定され、イシカリ十三場所が成立し、アイヌ民族と松前藩との交易が盛んに行われました。

●縄文以降北海道独自の文化が形成された縄縄文、擦文

旧石器文化の石器、縄文文化と縄縄文文化の土器や石器、擦文文化の土器や木器が出土し、500箇所以上に及ぶ遺跡があります。

●鮮明な四季と多種多様な植生

札幌市は北緯43度の中緯度に位置するため、四季の変化が鮮明で、かつ、日本海を通過する冷たい寒気が樺戸山地や札幌西部山地に衝突、上昇することにより大量の降雪をもたらします。さらに、市内には山地、丘陵・台地、扇状地、低湿地、砂地など多様な地勢や土壌が存在し、また、温帯落葉広葉樹林と冷温帯針広混交林の境界域にあるため多種多様な植生が存在するとともに、これらの環境が後の札幌のさまざまな生業を支える基盤となりました。

●南部の山地・丘陵地と北部の低地をつなぐ扇状地

藻岩山等の南西部の美しい山々、月寒台地等の南東部の丘陵地、北東部の石狩低地帯、豊平川によって扇状地が形成されています。

(2) 札幌市の歴史文化の「特徴」の抽出

前述した歴史文化の特徴の整理の考え方をもとに、札幌市を代表する文化財や本構想策定にあたって実施した策定委員会、市民ワークショップやアンケート、文献調査より出された文化財を、歴史的（時間）観点、地域社会的（地域・社会・生活）観点、空間的（自然・地形）観点で整理しました。

その結果、①「札幌市は豊かな自然環境に恵まれ、人々は時代を超えてその自然環境を活かした営みを行ってきており、札幌の歴史文化の基盤となっている」こと、また、②「イシカリ十三場所の開設や開拓使が設置されたことやアジア初の冬季オリンピックが開催されたことなど時代を動かした出来事とも言える日本でも特有の歴史の変遷をたどってきており、その証の文化財も多く残っている」こと、さらに、③「アイヌ民族の文化や各地域の移住者たちの文化が現在にも継承されている」ことが分かりました。これら3つの視点から、6つの札幌市を代表する歴史文化の特徴と、各地域に残され地域の人々が愛着を持って語るような身近な札幌市の歴史文化の特徴を導き出しました。

視点 1	札幌市の歴史文化の基盤となる自然環境
視点 2	札幌市の歴史文化の特徴づける時代を動かした出来事
視点 3	時代を超えて受け継がれる文化

● キーワードで文化財を整理し、歴史文化の特徴を整理（概念図）

※文化財は札幌市の歴史文化の特徴を整理するために挙げたものであり、指定・登録を受けている文化財、市民アンケートや市民ワークショップで挙げられた文化財、本構想策定委員会において挙げられた文化財を中心に整理しており、札幌市の文化財全てを網羅していません。今後の文化財の把握・整理等によって、札幌市の歴史文化の特徴は増えていくことが考えられます。なお、文化財は複数の特徴に重複して整理されているものもあります。

歴史的（時間的）観点	時代区分	20000年前～8000年前 （旧石器時代）	8000年前～西暦1867年	西暦1868年～1925年 （明治期～大正期）	西暦1926年～1988年 （昭和期）	西暦1989年～	（平成期）	
	時代背景 キーワード （まとめ）		イシカリ十三場所設置 大友堀開削(慶2) など	開拓使設置(M2) 屯田兵制定(M7) 総合的な交通ネットワークの確立 開道50周年記念博覧会開催 市制施行 (T11)など など	冬季オリンピックの開催(S47) 本格的な投資計画事業実施など	都市の成熟期におけるまちづくり など		札幌市を代表する 歴史文化の特徴
	考古学的遺産 （遺跡、出土品）	S91/S103/T464/ 札幌市N30遺跡出土品 /N295遺跡/N30遺 跡/T151遺跡/H317 遺跡/札幌市K-446遺 跡出土の遺物/K39遺 跡 など		旧等似川流域の竪穴住居跡分布図 など		丘珠縄文遺跡 など		札幌の豊かな 地形・地質が育 んだ自然と 人々の営み
	アイヌ文化 （アイヌ語地名、コタン、 歌、踊り、アイヌ文化施設）		アイヌ古式舞踊/天神 山チャシ/藻岩山（イ ンカルシベ）/アイヌ 語地名/コタン など	アイヌのまるきぶね/ジョンパチエ ラー など	幌アイヌ協会(北海道アイヌ協 会) など	ウレシバモシリ北 海道イランカラブ テ像/北海道アイ ヌ総合センター/ サッポロピリカコ タン/北海道博物 館 など		藻岩山や豊平 川に代表され る豊かな自然 と今に継承され るアイヌ民族の 精神
	札幌市の都市形成 （イシカリ十三場所、御手 作場、開拓使、農学校）		箱館奉行所文書/吉田 茂八/志村鉄一/大友 亀太郎/御手作場/道 道花畔札幌線（ななめ 通り）/創成川（大友 堀）ハッサム/上サッ ポロ/下サッポロ/シ ノロ/ナイホ など	清華亭/開拓使文書/開拓使札幌本庁 舎跡及び旧北海道庁本庁舎/豊平館/ 旧札幌農学校演武場(時計台)/ウィリ アム・スミス・クラーク/エドウィン ダン記念館/旧開拓使工業局庁舎/す すきの/ビール工場/基盤の目の街並 み/北海道大学農学部植物園・博物館 /北海道大学古河記念講堂/北星学園 創立百周年記念館/北海道大学附属植 物園庁舎/北海道大学旧札幌農学校図 書館読書室/北海道大学旧札幌農学校 図書館書庫/北海道大学/遠友夜学校 /資生館小学校/ など				水を活かしに 開拓が進めら れた札幌の 都市
地域社会的 観点	札幌冬季オリンピック （競技場、地下鉄、地下 街）				札幌市営地下鉄/オーロラタ ウン・ポールタウン大倉山 ジャンプ競技場/真駒内セキ スイハイムアイズアリーナ/ 真駒内公園/サッポロティネ など			冬季オリンピック 札幌大会によ って大きく変 化したまち
	積雪寒冷地 （雪、除雪、建築様式）				除雪技術/北方型規格住宅 など	雪氷熱/モエレ沼 公園 など		積雪寒冷地 の大都市で 育まれた特有 の都市形成 や技術
	市民の暮らし・風物詩 （まつり、各恒例行事、余 暇、公園、商店、交通）		定山溪温泉	北海道神宮/札幌まつり/円山公園/ 大通公園/中島公園/新琴似神社/ 烈々布神社/丘珠神社/白石神社/三 里塚神社/中の沢神社/琴似神社/札 幌市電/中島公園/円山の花見/豊平 川花火大会/狸小路/すすきの/二条 市場/丸井今井(今井商店)/三越 (京屋デパート) など	さっぽろ雪まつり/さっぽろ 大通ビアガーデン など	YOSAKOIソーラン 祭り/シティジャ ズ/パシフィック ミュージックフェ スティバル/平岡 公園/川下公園/ モエレ沼公園/五 天山公園 など		鮮やかな四季 の移り変わり と季節ごとの 風物詩
	地域ごとに発展した文化 （旧町村、屯田兵、農業、 産業）		荒井村(篠路村)/札 幌村/発寒村/定山溪 など	琴似屯田兵屋/旧永山武二郎邸/丘珠 獅子舞/篠路歌舞伎/篠路獅子舞/琴 似屯田兵村/山鼻屯田兵村/篠路屯田 兵村/新琴似兵村/鈴木煉瓦製造場/ 石山軟石/手稲山口パッタ塚/札幌美/山 口スイカ/宇都宮牧場跡/軟石倉庫/ 平岸りんご栽培/篠路大根/札幌市電 など	白石こころーど/沼田家住宅 旧りんご倉庫/りんご並木 (豊平)/ラベンダー/など	五天山公園/ボラ リス など		身近な歴史 文化の特徴 現在に残る地 域特有の歴 史文化 ・石山軟石 ・屯田兵 ・市電 など
				豊かな自然や地形は全ての文化財に影響				
空間的観点	自然・地形	サッポロカイギョウ/藻岩山/円山/天神山/手稲山/円山原始林/藻岩山原始林/豊平川/厚別川/琴似発寒川/伏古川/月寒川/新川 /扇状地/メム(湧き水)/イタヤカエデ/オオモミジ/サクシュコトニ川/豊かで美しい自然/鮮やかな四季/雪/ホテル(西区) など						

【札幌市を代表する歴史文化の特徴（案）】

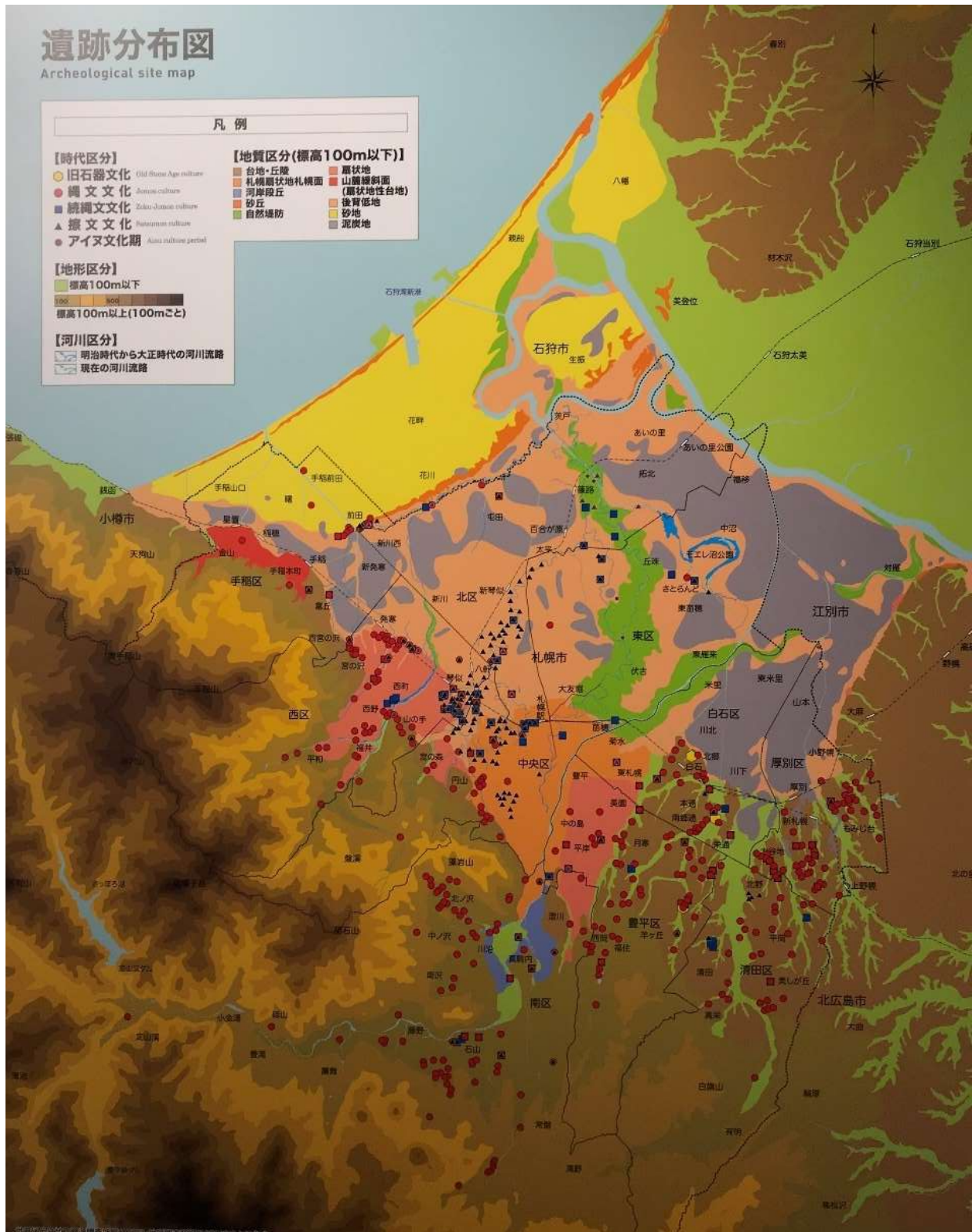
1) 札幌の豊かな地形・地質が育んだ自然と人々の営み

2億年前、現在の北海道のあたりは一面の海でした。2400万年前の新第三紀、北海道は多島海となり、札幌地域も海水を被り海の生物が住むようになりました。当時海であった札幌の冷水海には、海生哺乳類で唯一草食性のカイギュウ（海牛）が棲んでおり、820万年前に生息し、世界最古の大型カイギュウの化石「サッポロカイギュウ」が豊平川で発見されました。約3万2000年前の支笏火山の大爆発は大量の火山灰を降らせ、熱雲軽石流が札幌中心部まで流れ着き、月寒台地を形成しました。

豊平川や発寒川の扇状地や、北星～南西部の山地、東部の丘陵地や台地など多様な地形を有する札幌市内では、500箇所以上の遺跡が発見されています。

縄文時代には、札幌の台地に人が住むようになり、その後、今の厚別川や月寒川、発寒川などの川沿いに多く遺跡が発見されており、札幌市内で発掘された遺跡の約半数が縄文時代のものであります。また、続縄文・擦文・アイヌ文化期には、主に琴似川の周辺やサクシュコトニ川周辺などで多く遺跡が見つかり、遺跡やその位置から札幌の地形・地質・自然と人々の営みの関係を垣間見ることができます。

札幌市内では大規模なムラ（集落）の後は見つかっておらず、これまでの調査では、お墓と考えられる土坑が数十～数百基残された遺跡は見つっていますが、それ以外は数軒～数十軒の竪穴住居や数か所～数十か所の落とし穴が見つかる程度の規模が小さな遺跡です。古くからの開発によって既に破壊されてしまった可能性もありますが、小規模な遺跡が多いことも、札幌市内の縄文遺跡の特徴といえます。



札幌市の遺跡分布図 出典：札幌市埋蔵文化財センター ※図は入れ替え予定

2) 藻岩山や豊平川に代表される豊かな自然と今に継承されるアイヌ民族の精神

北海道の他の地域と同様に、近代化が進められる以前から札幌市内にアイヌ民族が暮らしてきました。特に当時メム（湧水）が見られた北海道大学周辺や豊平川付近には大きなコタン（村）があったといわれています。自然界のすべてのものはアイヌモシリ（人間の静かなる大地）を訪れたカムイ（神／霊）が一時的に姿を変えたものであるため、それらをカムイとして敬い、自然との共生が大切であるという考えのもと、アイヌ民族は藻岩山や豊平川に代表される札幌市の豊かな自然とともに生活を営んできました。

札幌市内の地名や川や山の名前はアイヌ語に由来するものが多く存在しています。例えば、真駒内は「マク・オマ・ナイ＝山の方にある川」、琴似は「コッ・ネ・イ＝窪地になっている処」、星置は「ペシ・ポキ＝崖のその下」など、自然の地形的特徴による地名があります。一方で和人がつけた際に当初と変化した名前もあります。藻岩山は昔「インカルシペ＝何時も見る処」と呼ばれ眺めが良くアイヌ民族の崇拝する山、豊平川は昔「サッポロ＝サッ・ポロ・ペツ＝乾いた・大きな・川（処）（諸説あり）」と呼ばれる川でした。このように、市内のアイヌ語地名の意味をひも解くことで、その地域の特徴やまちの開発等によって失われた自然の姿を思い返すことができます。

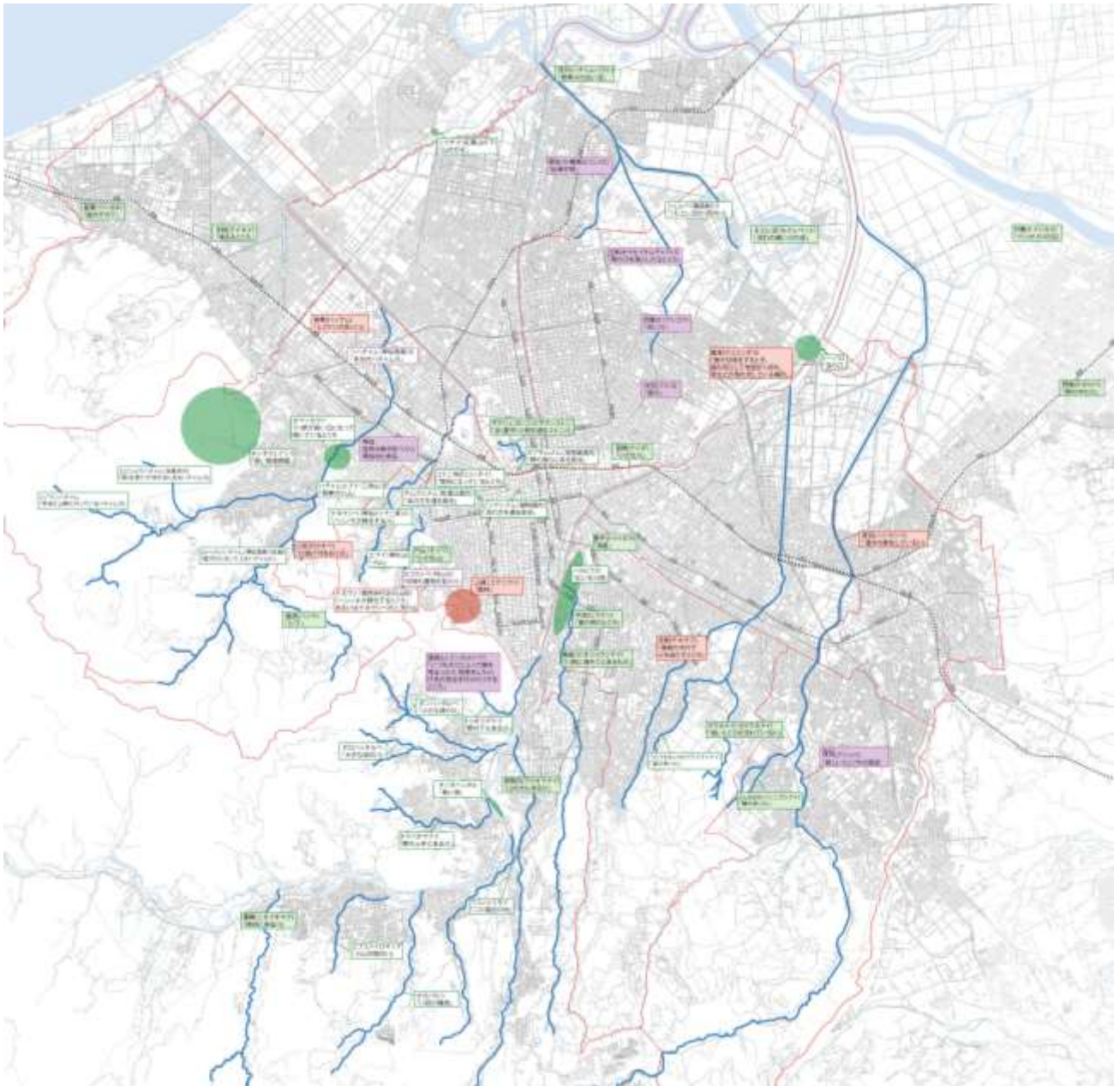
さらに、アイヌ民族は自然と共生する中で、イオマンテなどの儀式やウポポなどの自然に深く関係した文化を育んできました。北海道各地にアイヌ文化を学ぶことのできる施設がありますが、道都である札幌市には、札幌市アイヌ文化交流センター（サッポロピリカコタン）などのアイヌ文化体験施設があり、伝統楽器の演奏や古式舞踊の披露などのイベントの開催、アイヌ語・手芸・工芸・料理などのアイヌ文化体験講座などが多く市内で実施されており、様々な形でアイヌ民族の精神が今に継承されています。



藻岩山（インカルシペ） 出典：札幌観光写真ライブラリー



サッポロピリカコタン 出典：札幌観光写真ライブラリー



今に残る地形と地名のアイヌ語名 出典：札幌のアイヌ地名を尋ねて／ウォッチング札幌／ ※図は入れ替え予定

3) 水を活かし開拓が進められた札幌の都市

札幌市の市街地は、豊平川の扇状地に開けており、山間を下ってきた川の水は、砂や礫が堆積した扇状地まで下ると多くの水が地下に吸収され、その水が、扇状地扇端部において再び地上に噴き出し、多くの流れをつくっていました。1700年代後半には豊平川流域など札幌市域、にイシカリ十三場所（松前藩により石狩川及び支流に設置された交易を行う範囲）の一部が成立し、松前藩がサケ等を中心とした物資を通じてアイヌ民族との交易を盛んに行っていました。

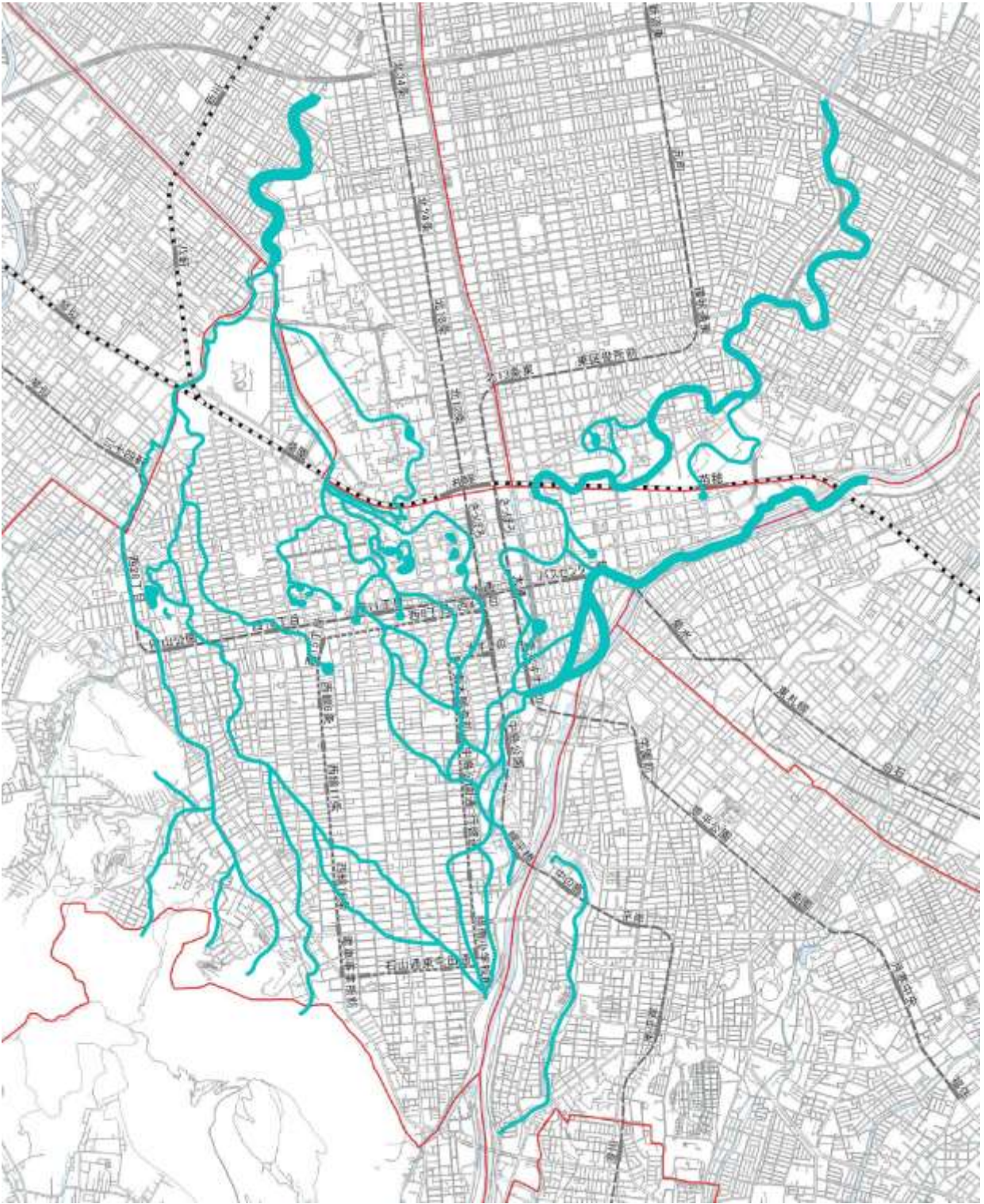
幕府が札幌を北海道開拓の中心地として選んだのは、大河石狩川の舟運により内陸部そして日本海・太平洋と四方への便からでした。さらに対外関係、特にロシアの南進に備えて日本海沿いに設置されたと考えられます。この選定は、松浦武四郎によるもので、本府建設の地を模索している際、文化年間(1804~1817)に近藤重蔵が残した記録を基に、現地の二人のアイヌ民族の首長とともに周辺を調査し、主に石狩川への舟運の便を理由に、豊平川を遡る3里(約12km)の地に適当な所(札幌)があることを確認しました。

安政2年(1855年)、幕府は蝦夷地を直轄地とし、箱館奉行を設置、それに伴い石狩役所を置き、荒井金助を石狩役所調役に任じました。安政4年(1856年)、箱館奉公によって銭函と千歳を結ぶ札幌越新道が開削されると、幕府により志村鉄一が豊平川の渡守として命じられ、志村は札幌に初めて居住した和人といわれています。その後、吉田茂八が付近に居住するようになり、志村と共に豊平川の渡守となりました。慶応2年(1866年)に大友亀太郎が札幌村に移住し、御手作場(幕府の模範農場)に水を引くため大友堀を掘り、その一部が現在の創成川の原型となっています。

明治2年(1868年)、開拓使が設置されたことで札幌市街地の本格的な本府建設がはじまりました。開拓主席判官島義勇が札幌の原野を見て描いた「いつか札幌を世界一の都に」という壮大な夢が、今の札幌の市街地の発展に繋がっています。島判官は札幌の地形や自然など当時の札幌のまちを分析し、現在の南1条通りを東西軸、創成川を南北軸とし、北西部に官庁・学校を、北東部は官営工場、南西部に町屋・住宅を、南東部には流通・宿泊施設を設置するという考えを基本として、現在の碁盤の目の札幌市街地を形成しました。市街地は豊平川扇状地の先端付近に位置した良質地盤で、開拓の首府はメム(湧水)や旧河川等の水の豊富な中心部に設置されました(現道庁付近)。また西側には農業・工業試験場を兼ねた偕楽園等、東側には工業局用地(後に製糖・製麦、ビール・酒造工場等が立地)等が、西側と東側のメム及び旧河川跡周辺に設置されました。

黒田清隆が開拓次官に就任した明治4(1871年)から北海道庁設置の明治19年(1886年)までの後期開拓使時代は、黒田次官が招いた御雇外国人ホーレス・ケプロンの構想である「開拓使十年計画」を基に進められ、そのほかの御雇外国人の技術指導のもと建築物の建設や製造業・農業などの産業推進が行われました。現在でも、北西部には開拓使札幌本庁舎跡や旧札幌農学校演武場であった時計台、北東部には札幌ビール工場などの工場施設などが残されています。

札幌開拓の軸となった創成川には、平成27年(2015年)に創成川公園が整備され、水辺空間を楽しめるよう階段も整備され、多くの市民が訪れています。明治4(1871年)に設置された歓楽街としてのすすきの(当時は薄野)は現在も賑わいを見せています。また、大通公園は、島判官による「石狩国本府指図」に公路的空間として描かれており、のちに長岡安平によって公園として設計されています。現在は、観光名所であるテレビ塔が設置され多くの観光客が訪れると共に日常的に市民の憩いの空間となっています。また、テレビ塔から大通公園を望む景色は東西にまっすぐと伸びており、開拓使時代に考えられた札幌のまちの構造とその発展を見ることができます。



現在の地図に古河川図及び明治24年の市街地の地図を重ねた図
出典：さっぽろ文庫別冊 札幌歴史地図<明治編>
さっぽろ文庫 川の風景

4) 冬季オリンピック札幌大会によって大きく変化したまち

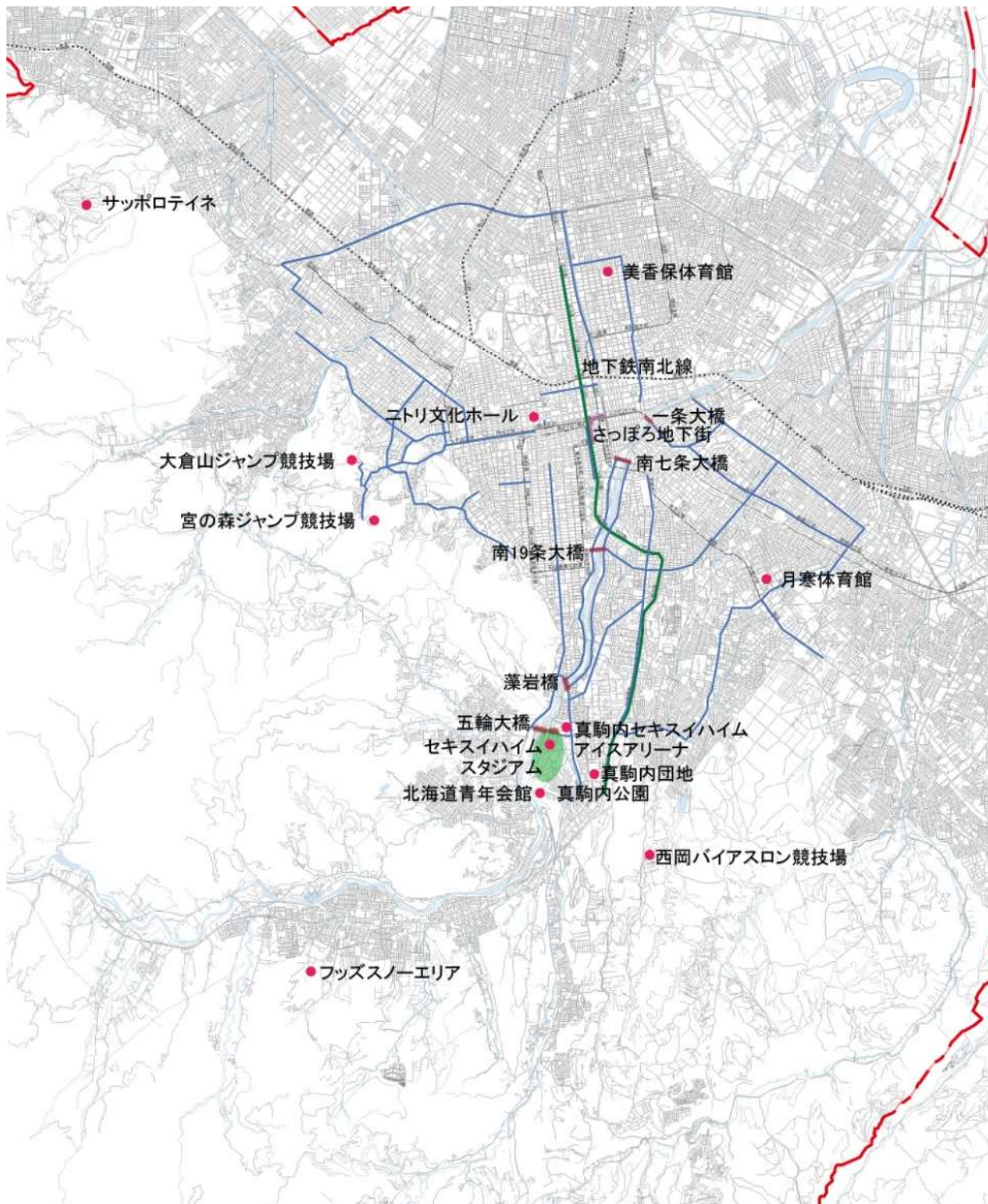
昭和 34 年(1959 年)に札幌市長に選出された原田興作は、札幌市で初めての街づくり総合計画を手掛けました。しかしこの計画は総事業費 287 億円と見込まれ、費用の約半分を国の補助金や借金に頼る資金計画で、当時の財政状況では到底得難いものでした。そこで原田は、昭和 15 年(1940 年)に開催が決定していながら日中戦争の影響により開催権を返上した冬季オリンピックを、再び札幌に招致することを思いつきました。他の立候補都市に惨敗するなど開催決定まで 6 年余りの歳月を有しましたが、遂に昭和 41 年(1966 年)4 月の IOC 総会で、昭和 47(1972 年)の第 11 回冬季オリンピック開催が決定したのです。そしてオリンピック開催決定の翌 5 月に、早くも市役所内にオリンピック準備室が開設されました。

昭和 39(1964 年)に夏期オリンピックを開催した東京では、競技施設の整備や円滑な運営に加えて、過密化した交通事情を改善して選手・役員・観客をスムーズに輸送したことにより、大会を成功させることができました。他方、交通渋滞のため運営が上手くできなかった開催都市もあります。こうした先例を受けて札幌市は、当時進めていた一バイパス・一環状・五大放射路線を骨格とする道路整備計画に加え、オリンピック各競技施設を結ぶ道路網の整備を将来計画の中から前倒して進めることを決定しました。具体的には、オリンピックの主会場でスケート競技場などが建設された「真駒内」、スケート競技場が建設された「月寒」と「美香保」、回転・大回転やボブスレー、リュージュの競技場が建設された「手稲山」をつなぐ Z ライン “をどのように機能的に結びつけるかが検討されました。それらを短時間で結ぶために道道清田真駒内停線（福住・桑園通（五輪通））、豊平川通、創成川幹線（創生川通）、札幌新道、札幌小樽道路（札幌自動車道）、手稲山麓線などの道路網と、豊平川に架ける五輪大橋、藻岩橋、南十九条大橋、南七条大橋などの橋の建設が急がれました。また、ジャンプ競技場が建設された「宮の森・大倉山」は Z ラインから外れていますが、こちらも西南線、北 24 条線（宮の森・北 24 条通）、大倉線の新設により、真駒内地区と結ばれました。美香保や手稲山へも、北一条通（北一条・宮の沢通）、国道 5 号（道道宮の沢北一条線）が新設されたことで結ばれ、このルートは Z ラインのサブルートとして形作られました。さらに北 24 条駅から真駒内駅までの地下鉄南北線も開通し、こうして、札幌市の交通インフラは急速に発展していきました。

オリンピック競技施設は、大倉ジャンプを大改修した大倉山ジャンプ競技場を除いて新設されました。「真駒内」地区の真駒内屋内スケート競技場、真駒内屋外スケート競技場、真駒内距離競技場、真駒内バイアスロン競技場。「月寒」地区の月寒屋内スケート競技場。「美香保」地区の美香保屋内スケート競技場。「手稲山」地区の手稲山回転競技場、手稲山大回転競技場、手稲山リュージュ競技場、手稲山ボブスレー競技場。「宮の森・大倉山」地区の宮の森ジャンプ競技場。それから、恵庭岳滑降競技場と手稲山の天候不良に備えて建設された藤野リュージュ競技場。以上 13 施設です。これらの施設は一部が閉鎖・撤去されたものの、名称や姿かたちを変えて現在でも市民に利用され続けています。また、大会運営に関連した施設は、既存の施設を利用したものや大会閉会後の利用方法が検討された上で設計が進められたものが数多くあり、オリンピックの遺物としない長期的な活用計画のもと建設されました。例えば、オリンピック関連行事会場は北海道厚生年金会館（さっぽろ芸術文化の館、のちにニトリ文化ホールと改称）を使用したり、オリンピック村は UR 五輪団地として、大会運営事務局は真駒内曙中学校として利用されたりしています。さらに、オリンピック関連の工事に合わせて、市役所新庁舎、さっぽろ地下街（オーロラタウン、ポールタウン）、民間企業社屋などの建設ラッシュが起こり、札幌のまちの姿は大きく変わり、これが現在に繋がっていま

す。

アジアで初めての冬季オリンピックが札幌で開催されたことで交通インフラや関連施設などの都市機能が急速に発展し、大会の成功と相まって、札幌の知名度は世界的に向上しました。



1972年(昭和45)年のオリンピック開催に向けて整備された今に残る施設や橋・道路など

5) 鮮明な四季の移り変わりと季節ごとの風物詩

札幌市の四季の移り変わりは鮮明です。雪解けが始まる 4 月頃から少しずつ春の陽気が見られ、5~6 月にかけて新緑が芽吹きます。夏は比較的梅雨が見られず真夏日が少ないため過ごしやすく、7 月~8 月中旬までに一気に夏の動植物が活発になります。8 月中旬から気温が下がり始め、9 月~10 月には寒暖の差によって美しい紅葉が市内各地で見られます。10 月末には初雪が見られ、冬は雪が降り積もり真っ白な世界が広がります。

そんな中、昔から市民は市街地を中心に季節ごとの暮らしを楽しんできました。札幌では5月の連休のころ、一斉に桜や梅の花が咲き出しお花見のシーズンとなります。現在、お花見の名所として市民でにぎわう円山公園に、明治8年(1875年)に北海道神宮(旧札幌神社)の表参道に150本の桜が植えられたのが始まりでした。花見に近郊の人々が訪れるようになったのは、明治10年代末頃といわれ、大正12年(1923年)に路面電車の路線が円山公園まで延伸されてからは、花見のころ1週間は花見特別輸送が設定され多くの人を円山公園へ運びました。

明治5年(1872年)に札幌神社(北海道神宮)の例祭が6月15日に決定され、その後現在も毎年札幌まつりが開催され多くの市民を楽しませています。札幌まつりで大人から子どもまで人気があったのが、見せ物小屋で明治25年(1892年)に始まり、明治32年(1899年)に創成川河畔に並ぶようになりました。明治34年(1901年)の火事をきっかけに、会場が中島公園に移され、現在でも札幌まつりの時には露店が所狭しと立並び、市民でにぎわっています。

1年を通して市民が余暇のため訪れる場所として定山溪温泉がありますが、豊平川とその周りに広がる紅葉が美しい秋には、特に多くの市民が訪れます。慶応2年(1866年)修験僧・美泉定山がアイヌ民族の人々の案内で泉源と出会った時に始まり、幾多の困難を乗り越え温泉の礎を築いた定山の功績から、この地が「定山溪」と命名されました。大正7年(1918年)には定山溪鉄道が開通し、札幌市街地から定山溪まで多くの市民を運びました。

大雪が降る中での冬の生活は、交通・運送をはじめ様々な面で大きな影響を受けますが、そんな中でも市民は雪を楽しみ、雪と上手に暮らす技術を生み出してきました。

札幌市でのウィンタースポーツは、明治41年(1908年)に札幌農科大学(現北海道大学)にドイツ語教師のスイス人ハンス・コラーがノルウェー式の二本杖スキーを紹介し、興味を持った学生はコラーの一台のスキーを借りて滑ったとされています。今では、藻岩山スキー場や盤溪スキー場、札幌国際スキー場など身近でスキーを楽しむことができる施設が整備され、市民の冬の楽しみの一つとなっています。

昭和25年(1950年)に第一回が開催された「さっぽろ雪まつり」は、太平洋戦争後、地元の中・高校生が6つの雪像を大通公園に設置したことをきっかけに始まりましたが、現在では世界中から「さっぽろ雪まつり」を楽しむために観光客が訪れるまつりへと成長を続けています。



札幌神社の花見 1900 年
出典：札幌市公文書館



札幌まつり 1960 年
出典：札幌市公文書館



定山溪温泉 1960 年
出典：札幌市公文書館



市民スキー場(藻岩山)1959 年
出典：札幌市公文書館



第一回雪まつり「熊」
出典：札幌市公文書館

6) 積雪寒冷地の大都市で育まれた特有の都市形成や技術

冬季札幌市では年間6メートルもの雪が降ります。180万人以上の人がいる大都市で、これほど多くの雪が降る都市は世界でもめずらしいことです。このような環境のなか、住民は明治初期から雪と戦うとともに、共存していくための創意工夫をすることで、現在に至る都市形成や技術発展につなげてきました。

明治初期には、人々がかんじきを履き、降り積もった雪を踏み固めることで道をつけていました。その後、明治19年(1886年)にはロシア式の馬そりが輸入され、それに三角形の板を取り付けて道路の除雪をしたことで札幌の除雪が始まりました。

昭和21年(1946年)にはアメリカ軍から借用したブルドーザーで機械除雪を始め、昭和47年(1972年)のオリンピック開催をきっかけに約400台の除雪機を導入し、無事にオリンピックを成功させ、今もその技術を高めています。

また、運んだ雪を溶かす融雪槽、道路下の水路から河川まで雪を流す流雪溝、道路の融雪及び凍結防止のために路面温度を上げるロードヒーティングなどの雪対策施設を設置することにより、札幌市と地域が連携しながら、住民がより安心安全に生活できる環境づくりに務めています。

寒冷地の建築技術の特徴として、北海道の住宅では断熱材を使用するのが当然のこととなっており、断熱に関しては市民の関心も深く、断熱材の種類や品質、工法が多種多様化しています。

窓に関しては、戦後いち早く二重窓が、そして昭和40年頃からはアルミ製サッシが普及し、防寒には随分と役立ってはいましたが、アルミサッシには結露現象が起きやすく新たな悩みが多くなりました。そのような状勢のなか、昭和51年頃からプラスチック製の窓枠が札幌市の住宅に使われ始めるとともに、大きな嵌め殺しと小さな開き戸を組み合わせたデザインとなり、それは白い幅広の枠とともに住宅の外観に変化をもたらしたとも言えます。これにより一層気密性が良くなり、枠の結露も少なくなりました。その後も多種多様な寒地向き窓が取り付けられるようになり、壁体の高断熱化とともに、窓面の防寒性能への市民の関心の深さがうかがえます。

さらに、積雪寒冷地の都市住宅として、札幌市の住宅の最大の問題は屋根にあると言っても過言ではありません。かつては、積雪によりすがもれや雪の重量で生活に支障をきたすことが多く、市内での雪おろしやツララ落としはよく見られる光景でした。そのため、雪が落ちやすいように急勾配の屋根が薦められていましたが、その後敷地の狭小化により屋根からの落雪に伴うトラブルが増加することで無落雪屋根が生み出され、今では一般的な工法にまで普及したと言えます。

日常生活の中で厄介者とされてきた雪ですが、古くから世界中に、冬の間作った氷を保管する氷室というものは存在しており、日本でも奈良時代の文献に出てきています。冷蔵庫等がない時代から存在していた伝統的なエネルギーの効率利用といえます。

雪氷熱は、冬期に降り積もった雪や、冷たい外気により凍結した氷などを、冷熱を必要とする季節まで保管し、冷熱源としてその冷気や溶けた冷水をビルの冷房や農作物の冷蔵等に利用するものです。平成14年(2002年)には、モエレ沼公園内にあるガラスのピラミッドで、公園内に積もった雪を貯雪庫に貯蔵して、6~9月の館内冷房の冷熱源として利用しています。



学校の二重窓 1978 年
出典：札幌市公文書館



屋根の雪おろし 1977 年
出典：札幌市公文書館

無落雪屋根の住宅

馬そり

ブルドーザーによる機械除雪



ガラスのピラミッド
出典：札幌市 HP



貯雪庫
出典：札幌市 HP

【札幌市の身近な歴史文化の特徴（案）】

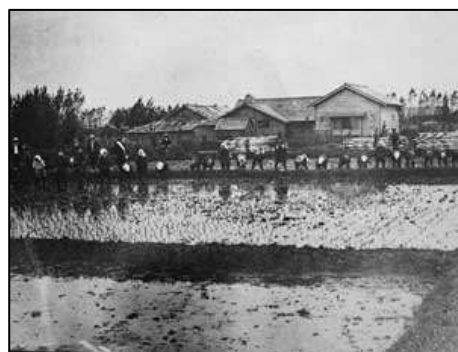
広い札幌市の中である特定の地域を特徴づけ、そこで語られ守られてきた身近な歴史文化の特徴を以下に整理します。なお、身近な歴史文化の特徴についても、今後市民とのワークショップなどで増えていく可能性があります。

※策定委員会やワークショップで挙げられた地域特有の歴史文化の特徴をここに記載。（区ごとの歴史的環境は2章に移動）

・屯田兵

屯田兵制度は開拓使の次官であった黒田清隆が建議し、士族に士族としてのプライドを保たせながら、北海道の防備を固めると同時に農業開拓に当たらせることを目的として明治7年(1874年)に制定されました。志願者は屯田兵の家である兵屋と土地、移動費、家具や農具、制服、最初の3年間は扶助米などが与えられ、家族を連れて東北など様々な地域から移住してきました。札幌では、明治8年(1875年)に198戸965人が移り住んだ琴似を始めとして、以降、発寒、山鼻、新琴似、篠路と各地域に多くの人々が入植しました。

明治37年(1904年)に屯田兵制度が廃止されて約30年の歴史に幕を閉じましたが、出征や開墾の苦労を共に乗り越えた兵村の人々は、その後も村民として生活し、それぞれの地域特有の暮らしや文化、精神を今に伝えています。



屯田兵から受け継ぐまちづくりの心
出典：札幌市 HP

・石山軟石

明治5年(1872年)に南区石山でお雇い外国人だった土木技師A・G・ワーフィールドと地質鉱物技師トマス・アンチセルによって軟石が発見され、明治8年(1875年)に本格的な採掘がはじまりました。この軟石は、約4万年前に支笏カルデラ（支笏湖を形成した火山活動）で大規模な火砕流が発生した際の噴出物が、高速で流下し固結したもの（支笏噴火溶結凝灰岩）と言われています。加工しやすく保湿性や耐火性にも優れており、最盛期には年産30万個、100軒以上の石材店がありました。しかし、大正時代にコンクリートが登場し、現在では札幌軟石を採掘・加工販売している業者は1軒のみとなっています。



石山軟石採掘場跡
出典：札幌市 HP

軟石を使った建物としては旧札幌控訴院（現札幌市資料館）や八紘学園のサイロが有名ですが、リンゴ倉庫や玉ねぎ倉庫などにも使われ、札幌の農業を支えてきました。最近では軟石を生かした公園や雑貨、古い建物をリノベーションしたカフェなどが人気を呼び、軟石が持つ独特の優しい雰囲気は今も愛され続けています。

・白石レンガ

明治 15 年(1882 年)の幌内鉄道開通当時、白石沿線でレンガに適した粘土が発見されました。当時、設計者だった平井晴二郎から信頼を得ていた鈴木佐兵衛は明治 17 年(1884 年)に鈴木煉瓦製造場をつくり、そのレンガはサッポロビール工場や東京駅など様々な建造物に使用されました。平井が設計した北海道庁赤れんが庁舎にも使われ、さらに重要文化財である「旧手宮鉄道施設 機関車庫 3 号」(小樽市総合博物館にて一般公開)にも使われたのではないかと推察されています。

大正 11 年(1922 年)に工場が閉鎖されるまでの 30 年以上、レンガは札幌の街づくりに大きく貢献し、現在もスーパーや J R 白石駅の外壁に使われるなど白石のまちに息づいています。



鈴木煉瓦製造場の干場 (明治 19 年)
出典 : 札幌市 HP

・路面電車

大正 7 年(1918 年)に札幌電気軌道株式会社による市電が走り、昭和 2 年(1927 年)に市営化されて以来、今も市民の足として長く親しまれています。最盛期には新琴似駅前方面や円山公園、豊平駅前、苗穂駅前方面にも路線が伸びましたが、地下鉄の開通等で徐々に縮小していきました。一時は全面廃止の危機もありましたが、市民の熱望により存続となり、現在の 1 路線となりました。その後はループ化や新型車両の導入など時代の変化に対応しながらも、一方で旧型車両と L R T (近代的・高機能な路面電車) とを共存させ、多くのファンを魅了し続けています。

また、車両の前後に取り付けた竹のササラを利用した除雪装置で路線の雪を掃き飛ばし、積雪が線路の障害にならないように冬の路面電車線路を守っているササラ電車は、札幌の冬を彩る風景の一つとなっています。



ササラ電車
出典 : 札幌観光写真ライブラリー

・ななめ通り

正式名称を「北海道道 273 号花畔札幌線」と言い、「元村街道」「ファイターズ通り」などとも呼ばれています。元々はけもの道だった元村街道は明治 6 年(1873 年)に早山清太郎によってつくられ、茨戸～篠路～丘珠～元村を経て創成川に至り、開拓時代は札幌と石狩を結ぶ重要な道路でした。

当時、ななめ通りがある東区南西部の一角はたまねぎ栽培に適した土地・環境で、有数のたまねぎ産地となりました。その技術は現在も受け継がれ、札幌黄というブランドも生み出しています。

道路に沿って帝国製麻工場跡やサッポロビール工場跡、神社が多く並び、大友亀太郎の役



たまねぎと東区
出典 : 札幌市 HP

宅があった場所に建てられた札幌村郷土記念館や玉ねぎ発祥地記念碑など、札幌の経済発展に大きく貢献したことが伺えます。

• 手稲鉱山

明治 20 年代半ば、星置の農家だった鳥谷部弥平治によって手稲山で金鉱脈が発見され、昭和 3 年(1928 年)に広瀬省三郎が探鉱を始めて以降、三菱鉱業など様々な企業の手によって鉱山が経営されました。

昭和 10 年(1940 年)から昭和 17 年(1942 年)の最盛期には東洋第二の鉱山とまで呼ばれ、鉱山周辺には手稲の人口の約 4 分の 1 が集まった「鉱山村」ができ、活気に満ちあふれていました。しかし、国の政策の転換や操業成績の低下などによる事業縮小を繰り返し、昭和 46 年(1971 年)に完全閉山となりました。

手稲西小学校の「鉱山の部屋」には、旧手稲鉱山の採掘現場を再現した展示や鉱山にまつわる品々が展示されています。数々の展示の中でも、昭和 11 年(1936 年)に当時の子どもたちが描いた 58 枚のクレパス画は、約 80 年前の手稲のまちの記憶を今でも私達に伝えてくれています。



鉱山内のジオラマ
撮影場所：手稲西小学校（鉱山の部屋）

• 五天山公園

かつての採石場跡地に作られた五天山公園は、五天山や自然を満喫しながらバーベキューやパークゴルフができる西区で初めての総合公園です。標高 303.5m の五天山は一部が階段状になっており、ピラミッドのようにも見えます。斜面が削り取られて崖になっている様子からは、五天山が昔砂利石をとる場所であったことが窺えます。

245.870 m²の敷地を持つ公園内には、かつて水田地帯だった西野地区に存在していた水車を復元し、その西側にはホタルや水生生物などの生育が可能な「ホタルの小川」が整備されています。

また、ホタルの幼虫やサンショウウオなどの五天山の生物について学習できる「環境学習館」もあり、子どもからお年寄りまで四季を通じて楽しむことができます。総合公園としての魅力だけではなく、旧採石場としての歴史と、環境学習の場としての魅力も併せ持っています。



五天山公園
出典：五天山公園 HP

・農業と食

酪農を志し 19 歳で大分県から北海道へやってきた宇都宮仙太郎は、その 2 年後にアメリカへ渡って本場の酪農技術を身に着け、明治 24 年(1891 年)に札幌市内で市乳の販売とバター製造を始めました。明治 28 年(1895 年)には北海道初の民間酪農団体「札幌牛乳搾取業組合(四日会)」を設立し、仙太郎を中心に技術や処世術等について活発な議論がなされました。数年後再び渡米した仙太郎はホルスタイン種牛を輸入して帰国し、日本の乳牛改良発展の基礎をつくりました。さらに「札幌酪農組合」を設立し、組合長としてデンマーク農業の導入にも努めました。

大正 14 年(1925 年)、後の雪印メグミルク株式会社の前身となる「有限責任 北海道製酪販売組合」(保証責任 北海道製酪販売組合聯合会に翌年改名)を結成し、酪農民の経営による酪農民のための組合が誕生しました。また、仙太郎は娘婿だった出納陽一にデンマーク留学をさせ、大正 13 年(1924 年)には現在の厚別区上野幌に共同経営で宇納牧場を開設しました。

日本酪農の父と呼ばれた宇都宮仙太郎は、先進的な酪農の研究・実践、品種改良、酪農後継者の教育、組合組織の発達に大きく貢献し、札幌だけではなく日本の酪農も牽引し続けました。



上白石にあった宇都宮牧場の模範牛舎とサイロ(大正 3 年撮影)
出典：札幌市 HP

・歩兵第 25 連隊

札幌が徴兵令適用地域となった明治 29 年(1896 年)、月寒に陸軍第七師団独立歩兵大隊が設置され、1,730 人の現役兵が入営しました。明治 32 年(1899 年)には陸軍第七師団歩兵第 25 連隊と改称し、月寒は「歩兵第 25 連隊のある村」としてその名を知られるようになりました。明治 42 年(1909 年)には札幌初の水道として歩兵第 25 連隊用の月寒上水道が完成し、現在西岡公園となっている西岡水源地がその貯水池として使われていました。

明治 43 年(1910 年)に豊平町が一部を残して札幌区に編入し、町役場が豊平から月寒に移転したため、当時月寒に通じる道がなかった平岸地区の人々にとっては大変不便となりました。彼らの要求により「平岸連絡線」が造られることとなりましたが、水田の埋め立て等で難工事が予想され、町は歩兵第 25 連隊への協力を依頼しました。明治 44 年(1911 年)、約 4,000 人の兵士が演習の名目で工事を開始し、住民も協力して約 5 か月後には道路が完成しました。工事の期間中、町は感謝の気持ちを込めて兵士一人につき毎日 5 個のあんぱんを提供したことから、この平岸連絡線はあんぱん道路と呼ばれるようになりました。昭和 15 年(1940 年)、歩兵 25 連隊と入れ替わるように月寒に北部軍司令部が設置されましたが、彼らの軌跡は「つきさつぷ郷土資料館」などに数多く残されています。



歩兵 25 連隊運動場
出典：札幌市平和バーチャル資料館 HP